拾遺

都名所圖會

龍書

龍青龍尾
昆沙門堂
鏡山
光秀塚
將軍塚
堤河
鵺森
親鸞屋舖
姫ケ池
聖護院
栗田社舊跡同神藤所
吉備公像
袖振原
松坂
花頂山旧趾
耕雲菴旧跡
法勝寺舊蹟
滿願寺
東天王
御所稲荷
新羅社
善正寺
眞如堂稲荷
袖競
安祥寺
小野治水
青蓮院
萩殿辻子
風羅坊舊趾
堀出觀音
秋葉祠
熊野権現
龍神 一名掘塚
明星水
明王寺
栗田神明宮 大日堂 東岩倉
比丘尼坂
在原行平亭
五大堂古跡
僧懐 後覚名舗 西教寺救
蓼倉茶師
願成寺
鳥居大路
お石神
月輪 月輪水 弥勒石佛
迎稱寺

伊澤

芝薬師
神楽岡
春日社 若宮 勅使里
吉田泉殿
法性寺
青龍寺
二軀石佛
砂川 柳ケ辻
龍王宮
千石岩
十禅師社
愛宕墓
中將實方家

極楽寺
智福院
神楽岡神
業平朝臣廟
正栄寺
沸々
陽成院陵
頼政山荘
樓門瀧
如意城趾
中尾山
後愛宕墓
北白川天滿宮

東北院
西天王
兼傳祠
一本松二本松
長徳院
地藏堂
小督局家
霊猿寺
地藏
大豊社
白河
貞信公亭
照高院

元真如堂 醍醐水
本社祠
新長谷寺
身隠森
武藏寺
後一條院陵
三本木
如意寺 霊木杉 鹿宮 閼伽井
葵谷
辨慶袈裟
白河陵
公任卿山荘
心性寺

瓜生山
金福寺
圓光寺 御宮
狸谷不動
月輪寺旅
権中納言敦忠山荘
宇禅庵
赤宮
小野毛人墓
観音石
矢背天滿宮
波那志里社
惟喬親王舊蹟

白川石佛
芭蕉庵 碑銘
栗山観音 檜垣塔 坐禅石
白鳥紙
雲母坂
一条寺天滿宮
頑仏祠 大山碑銘
陰松

舞楽寺天王
比良木社
曼珠院
鷺森 髪塚天王
獄山名取谷
禅義庵
理昇院
高野社
千束磯
矢瀬川
炭竈里
攝取院
勝手社

林丘寺 修学寺末
大納言局名卿旧蹟
寶幢寺
沸蓋山
蓮義寺
甲斐
住吉石
沸蓋社 同例祭
十禅寺
敬行朝臣家

道入寺
山端
不動堂 滋水飲 地ケ沈

西方院
萱草橋
羅漢橋
鉄盤石
靜原峠

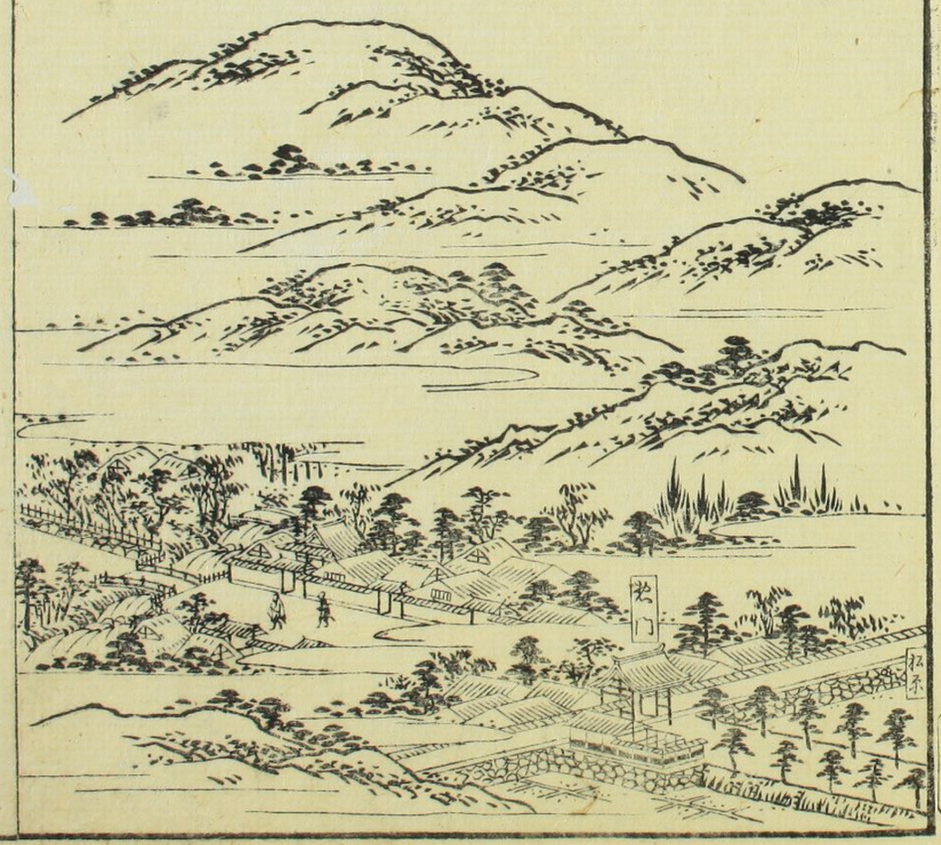
真光寺
來迎橋
法然上人腰掛石
寂光院 補遺

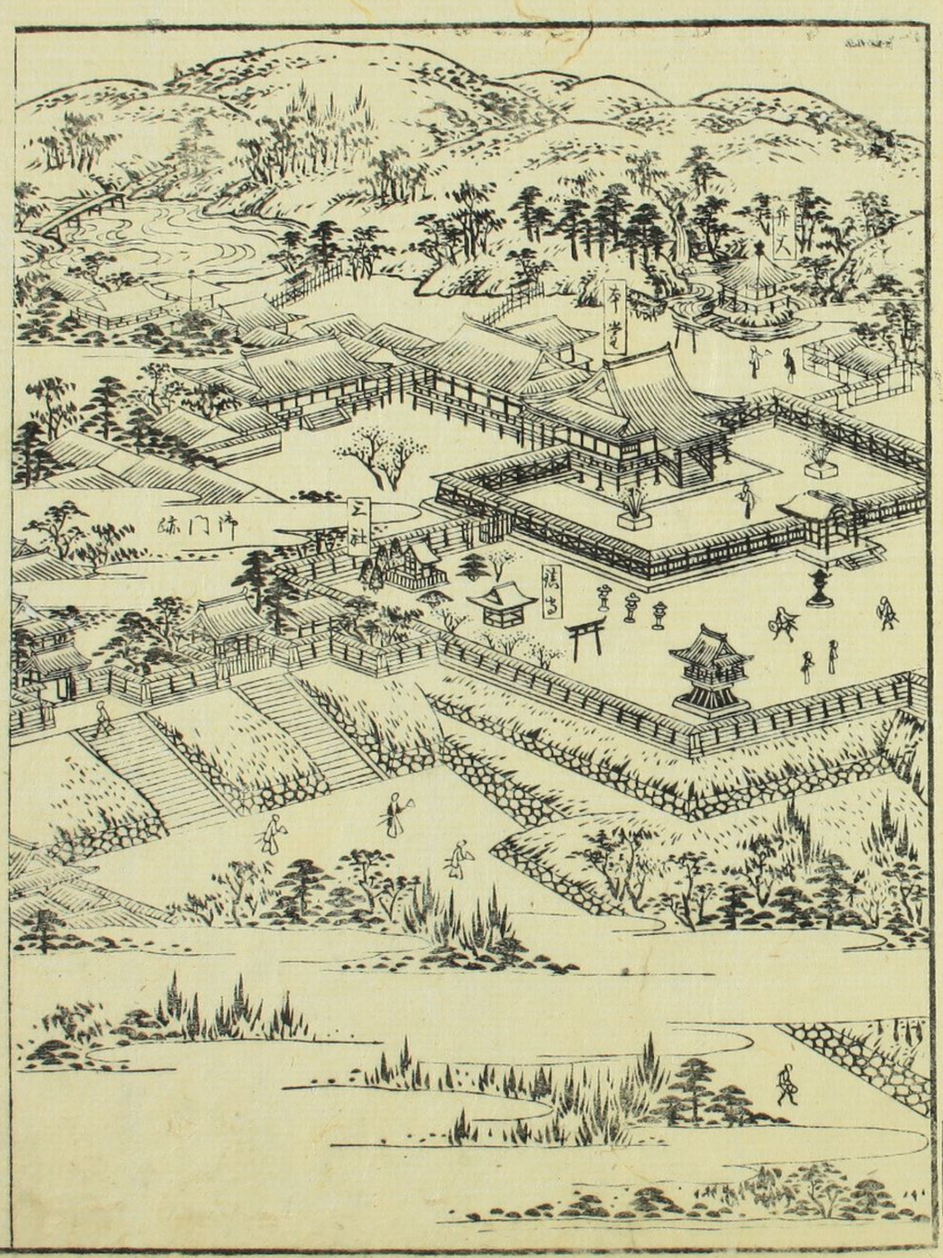
賀茂公頼墓
後鳥羽院陵
姫洞 大はた社
水玉雨壺風壺

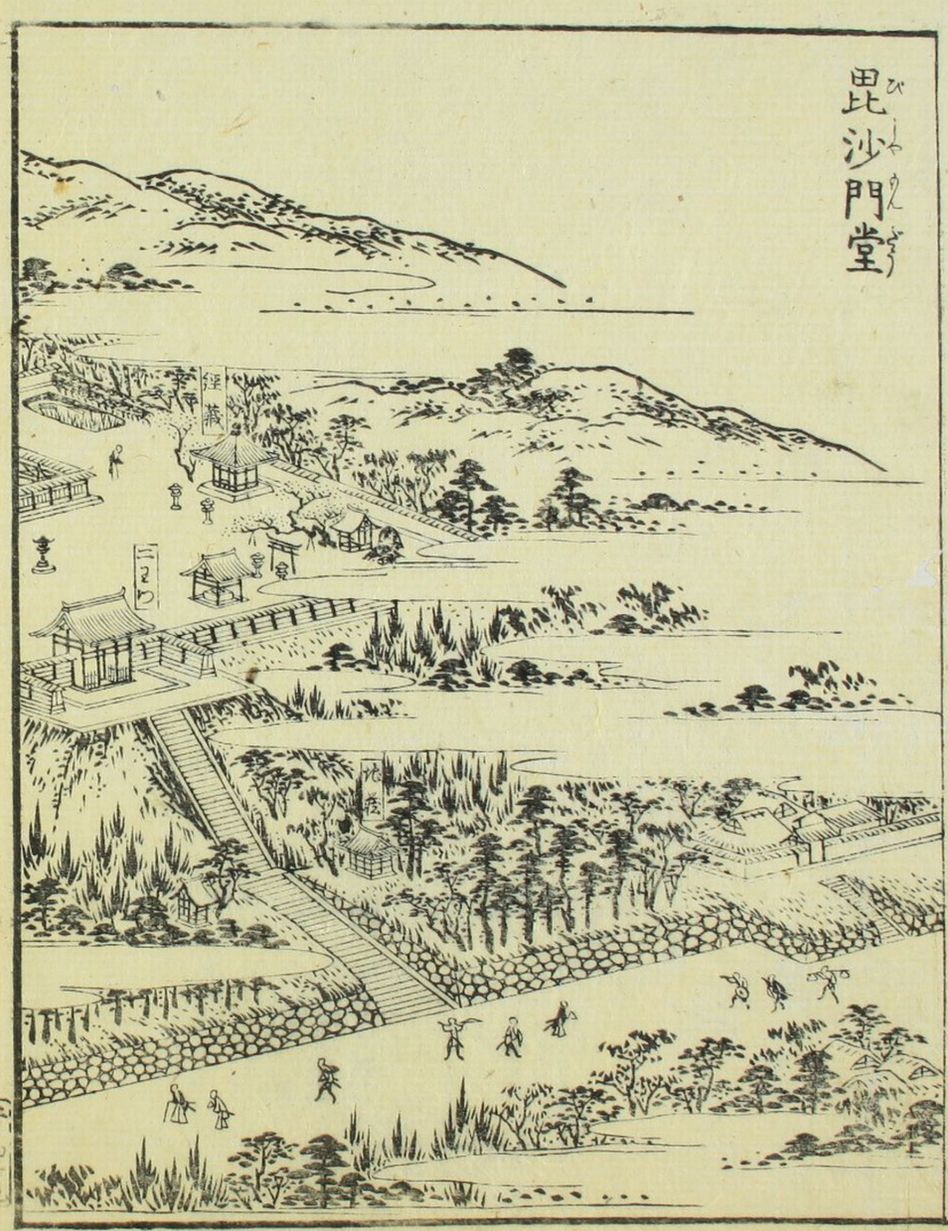
小野氷室
獅子石
良暹法師山荘
龍蓑越

山科
毘沙門堂御門前

毘沙門堂の僧教
大師の御基にて
初め平安城今出川
のほとりに有今は
叡山の麓に移る
前編にくわし




仏殿
本堂
三社
鐘楼
仲門跡


毘沙門堂
経蔵
二王門

袖麿　むさし山林の竹鼻乃かうこう　おうこうこう今定かうこう須
拾玉　おくれゐる身も世ふるつそそう　其山林の袖のうつくしまて　慈鎮
宇治拾遺　山林のうつくしき所ありて　川原といふ所に袖くくりて
ありまる所ありて　盛衰記を東路や袖くくり給ふも遁世と續けり
ます　恭をいそ給を立ちる藤衣袖のいろ乃夢のはよもふ　衣笠内府
おもひ明暁ふる
あさゆう袖乃いろのさよふるころ帰るこの涙こうこん　心敬

明王寺　山林陵村街道より五町ゑ
禅宗中興　龍剛禅師
本尊十一面観音　慈覚大師の作之像　四天　昭士文殊　普賢　人服櫃　観音
伝云天智帝の御冠を納めらる像　佛殿の側にあり天降る像
うつくしき毎茶ゑ云ふ御戸開あり　糸貳天智帝　御時の中ふ安置
鏡池　寺内にあり天智帝　登天し給ふ時　玉體をうつしとゝめ
霊水寒暑ふ増減なし　ふ陵村ふ天智帝の臣下の苗孫今ふ
鏡山　明王寺の後山をいふ　藻塩草ゑ天智帝乃御時
詞林采葉抄云鏡よりこ所ふ
萬葉集第二　従山科御陵退散之時
長かやをそもろこそ見みのかとこ御陵ゑ山科
後のこふよるへをよ　額田王

安祥寺　高野堂と号ふ由緒
前編ふ久くより
伊勢物語妙所高ふくまて行て安祥ちみそよゝ行々
人こさけりのまれふをこ
後撰集　こゝのそうろうそくふおくこ
安祥寺ふ殿居して年をとりふくさむかそくれとそふこそ祝
後の句ふ世のうたこれふくさむ

青龍権現　當寺の鎮守
入唐の足奉士の會昌二年也武宗
乃鎮守青龍の御躰祝取奉て
八月ふ皇太后追福乃為ふ安祥
をふ寺ふ唐朝より將来る所の
鎮守こゝ今観音堂の西の像ふ
高野山應其上人再興を
坂栗田口より日岡ふやる坂道祝
即古社の伝説記え元徳二年二月
て車馬ゑかまへある松坂檜岡をそ
う迷惑ぜ外ふそるふ見人にてそ
きん花ふしもふ祝うてけさそこ
松のうふうそまるくし岩田森
うつくありそうこあん
道の花

松坂　貴賤二条の京栗田口ゑ
貴賤二条の京栗田口ゑ
て車馬ゑかまへある松坂檜岡をそ
う迷惑ぜ外ふそるふ見人にてそ
きん花ふしもふ祝うてけさそこ
松のうふうそまるくし岩田森
うつくありそうこあん
道の花

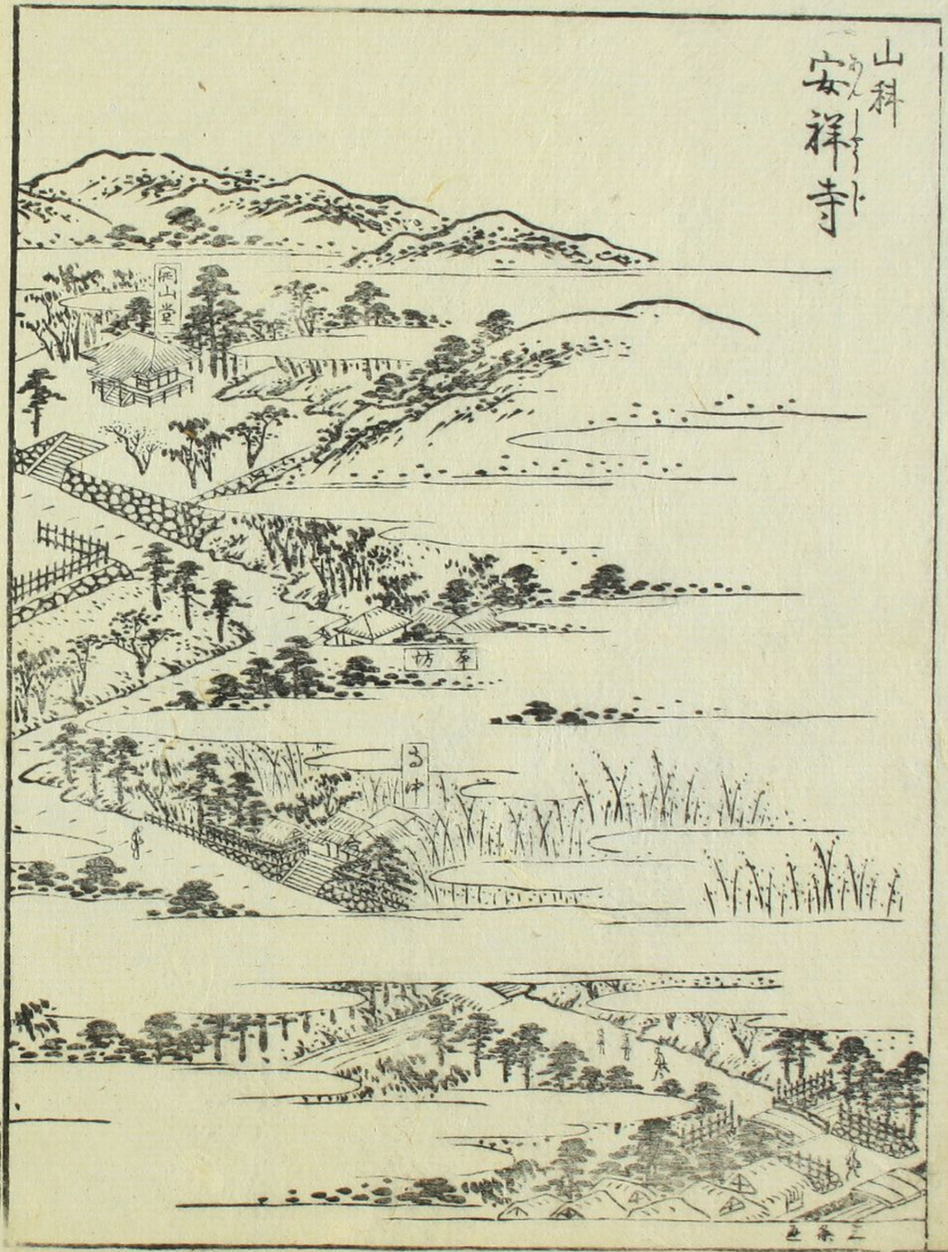
伊澤



山科
明王寺
鏡山





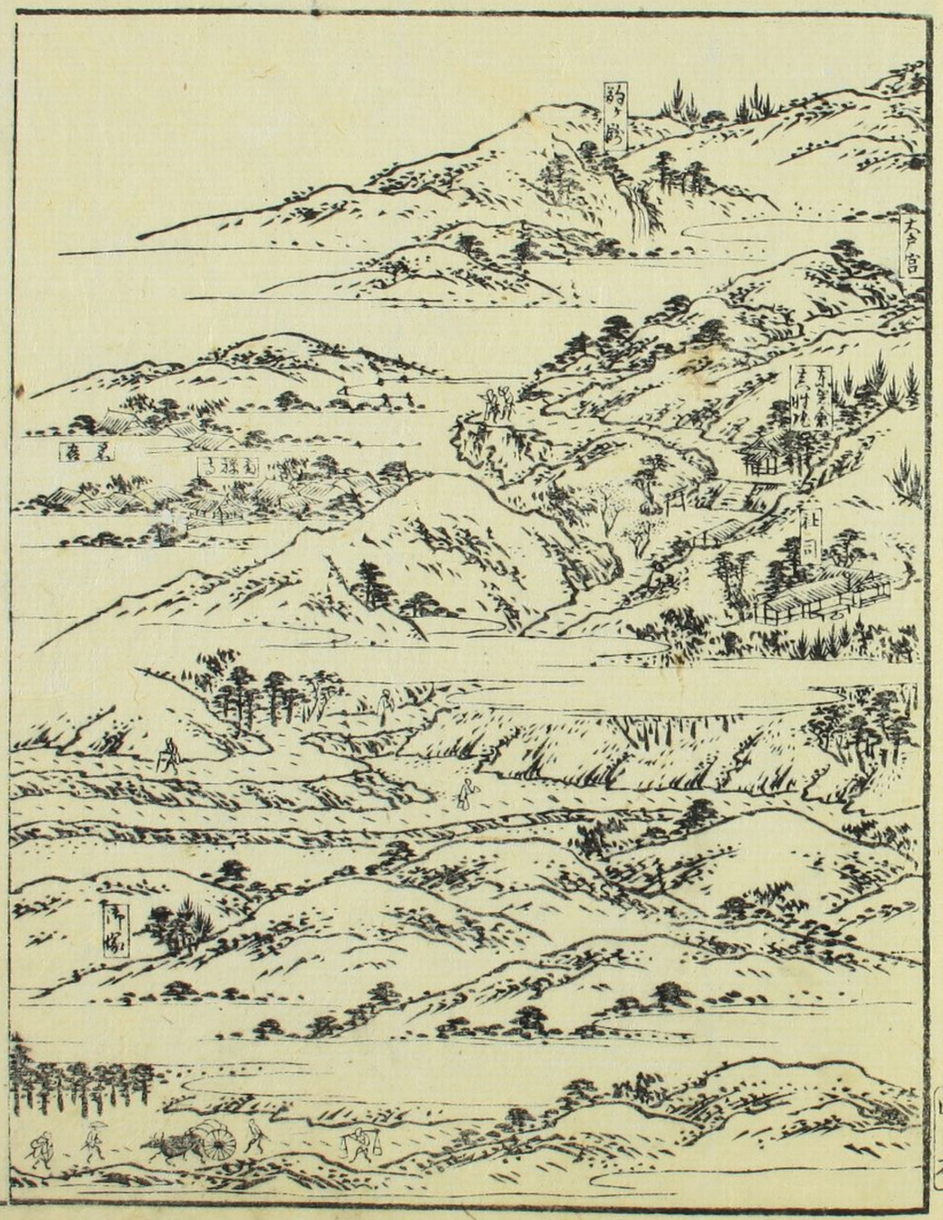

山科
安祥寺

日山神明宮　栗田口ふあり鎮坐の義歴久遠みて詳ならず社記ふ曰
神功皇后三韓退治の祈こして所縁ある其後
帝行幸ありて日山乃號ふ賜ふと
遷都乃時祈願ありそし
社司官軍ふ為擔して新田義貞
社參儀ふ倣ひ祈野呂たばら宮
黜爰ふ裳ふとより時呂氏代々
奉崇國所ふ
台命ありて增祀と賜ふ
影向石　鳥井の左神木　南天ふ
當ふあり
明智光秀塚　近年明田氏とふ人比地
小鍛治宗近水　比所佛ふ
花頂山　栗田ふの西青蓮院の嶮と
壟と少ふ
游ぶふの多く佛像ふ
ふ故ふ名頂と名づくと
應仁記ふ三井寺門徒ふの園滿院
近衛坂中ふも花頂山ふ唐乃天
端の
又曰寛正六年三月四日將軍義政公
主んふ今栗田口天王社乃ふ
ふんへの名頂院の門跡とふり
栗田口神明山ふ至ふ西一町
比丘尼坂　大ふ強の小坂ふて古代比丘尼住て
の人ふ衛進を援世建仁寺町松原の南ふあり

將軍塚　栗田花頂山の峯ふあり高上四
平安城久延ふ
弓箭ふ持ぜそ當ふの峯ふ西向ふ
そふれ天下災害あらん時ふ
青蓮院　栗田口鎮乃天台宗ふて
門跡
和尚形　大職冠十三世の嫡孫
保延四年十月廿九日座主
勇三大僧正慈鎮そふ代々法親
王治職ふて山門乃座主ふ
耕雲草菴　花頂山の奥ふ旧趾あり耕
耕雲ふ後方ふ
法名ふ勝欛ふ耕雲と号ふ

山本

六十ふ至あまり白川の東花頂ふ乃奥ふ幼質をかくし麻呂子
友なむそび泉石ふこころ任ふ
在原行平卿亭　今定ふ
堤河　鴨川ふ
源氏物語常夏巻ふ川ふ
洗ふ人ふそてこしてまれ
六帖
月ことのあやぜろこそ絶ぜひはこふを
秩殿　鴨川の東辺姉小路の
又黒谷僧ふ法然上人の





大日山
神明宮
東岩倉

蹴上

安養寺

神明鳥居前



法勝寺舊蹟

下岡崎にあり六勝寺の一也

常行堂　曼陀堂　不動堂　山王社　八十六間廻廊　南大門　金堂　講堂　阿弥陀堂　五大堂　法華堂　藥師堂　九重塔　八角堂　西門　北門

拾芥抄曰承暦元年十二月十八日供養行幸云々中興の祖ハ貞盛上人みそ天台勝出ぶと雖學ぶそむ人なれ坂本西教寺ハ草創を當寺應仁の亂ひて後金堂本尊薬師佛ハ西教寺へ遷ふ

塔壇　當村の西小一町計ふあり九重の塔ハ此所ふありしと云傳ふ

方十間餘の芝生ありて中ふ撰擇の木三株ありて時々田畑よりハ法堂の旧礎みへて

俊寛屋敷

日村裏のなり中ふあり法勝寺僧行俊寛僧都の住しと云傳ふ今ハ本西教寺の持ふとなる中ふ荒神祠あり古の鎮守なり

案集　君ハ代ふ法乃とそくゆるとそとそ

風雅　立よりてそとをろかむる春ハ木の

六勝寺

其外六勝寺の内成勝寺乃ハ法勝寺の東二條の小白川橋の東之延勝寺の乃ハ法勝寺の旧乃延勝寺の旧乃小ふあり尊勝寺の乃ハ岡崎村乃西北草道の一町計ふあり圓勝寺の乃ハ二條の南白川の東ふあり都て六勝寺ともいふなれとも諸堂壯麗みて當慶の日ハ拾芥抄ふハ應仁の亂ふ燒亡

禪林寺

下岡崎南の端西一町計田畑の中ふあり一堆の丘とみて上ふ樹木ふし森のいみへハ地主勢觀院の所時東三條殿へ必帝行幸ありて東三條殿の上ハ慶へ必帝行幸ありて賴政鳴弦の術を以て具怪鳥放退給ふ感を蒙ふ事ハ源平盛衰記ふ委し

初花なんどうち旅の夢乃
かりくらほのりねの
一夜ふかなるまの門出
袖引名ごり夕くれの
駒とゞめ周禮ふいて十里ふ
廬あり廬ふ飲食
あり二十里ふ宿を
宿ふ路室あり
いふい邦の教業
坊の梅のかうろ
野くべし

さそれて
宿るや
花の
花の
とき哉

風羅坊舊蹟　岡崎ニあり定家公別荘の地なり阿弥陀佛と云人俳法師ありけり旧跡なりしとぞ

都經細の時ニおとづれくさふかき棲て朝夕の勤ふか翁の發句をおもひ出てこゝろ

ほそきを清し月雪をあはれこゝろの終ニ宝永八の年二月九日ニみそむるまで

あるかの遺詞ふかく全假の姿ニ形見菅笠杖行硯空嚢紙繪袈裟

い惟然乃門ニ傳播ニある千ふり附属ニ今ハ姫路の小壇位ニふ風羅坊を

遷して堂を營ニふ安置ニ側ニ塚を築てその塵を納て神ニまつれる

義塚とゆゑ其側ニ姫府の城主の發句を石ニ鐫ニ立る　柔ハ順ニ明ニ名ニ圖ニ命ニ

そき紙衾や凡ニ屋ニて毋ニ名ニ多ニ世　姫府　雅樂候

雨願寺　下岡崎東側ニあり開基ハ日亨上人　勝法勝寺の

之末年中の建立ニて　本願寺傳記ニ出

文子天神　當寺乃中門ニ額ニ鎮守之堂ニ前ニ小祠ニ井ニ

蓼倉藥師　滿願寺乃ふ隣ニ有ニ祈願ニ安置ニ

寺院破壊ニて本尊も漂流ニ

故ニ蓼倉山法雲寺と号ニ

親鸞屋敷　岡崎之應寺前町今ニ

五坊庵とて本願寺傳記ニ出

しニ旧蹟ニて

乃ふ小祠ニ

堀出觀音　旧地ニ

東天王社　旧地ニ

書ニいへるハ此

諸社根元記ニ祇園牛頭天王初ニ播

願成寺　東天王の南ふあり大念佛

寺説ニハ此ニ舊真言院ニ

秋葉社　就寺の里坊ニ次

御所稲荷社　門ふ小祠ニふあり

鳥居大路　上ニ出ニ

押寄てゐる

古鳥居大路を

堀池　中岡崎黒谷門ふの南ふあり

秋葉社　上岡崎南側ふあり

御所稲荷社　門ふ小祠ニふあり

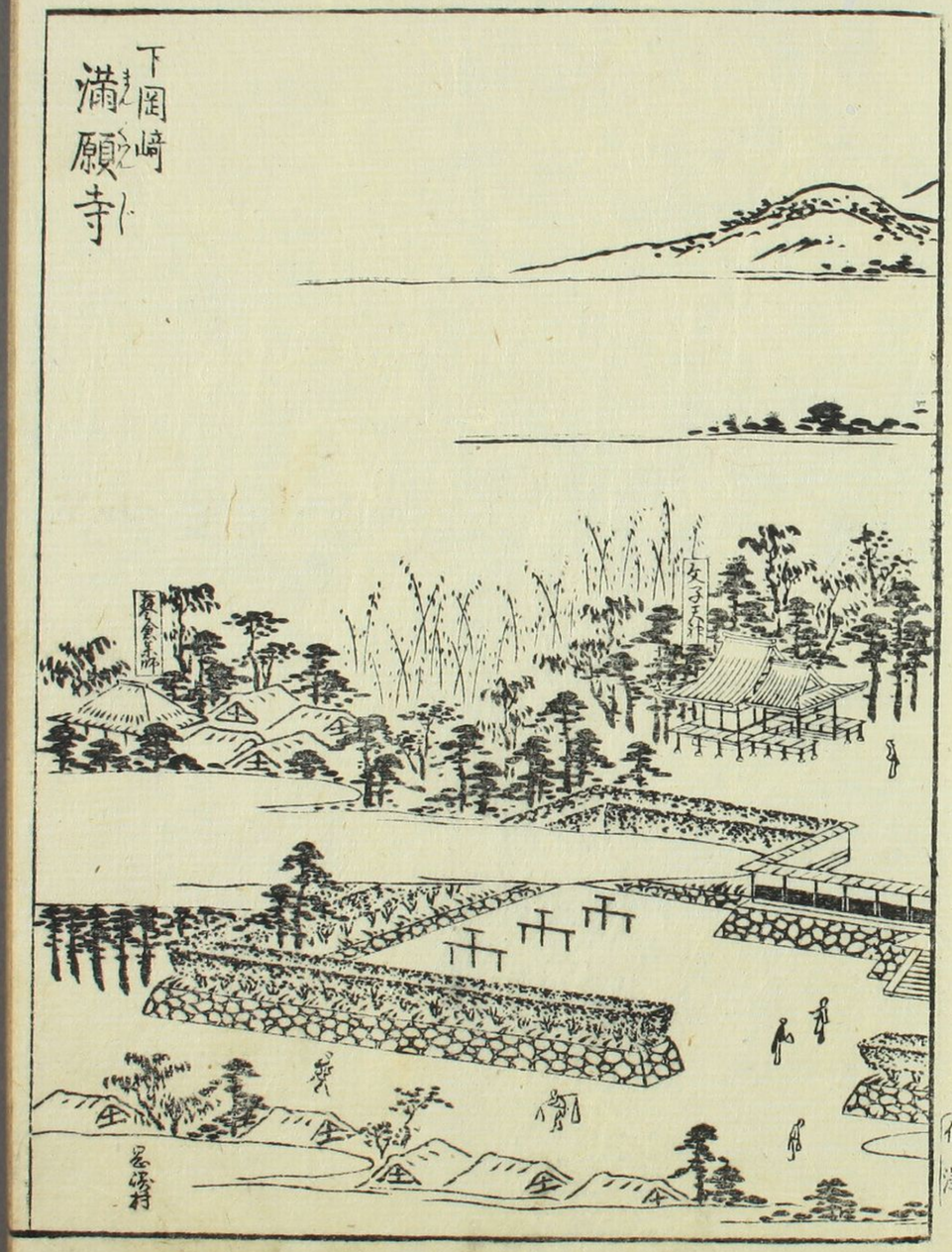
鳥居大路　上ニ出ニ

押寄てゐる

古鳥居大路を

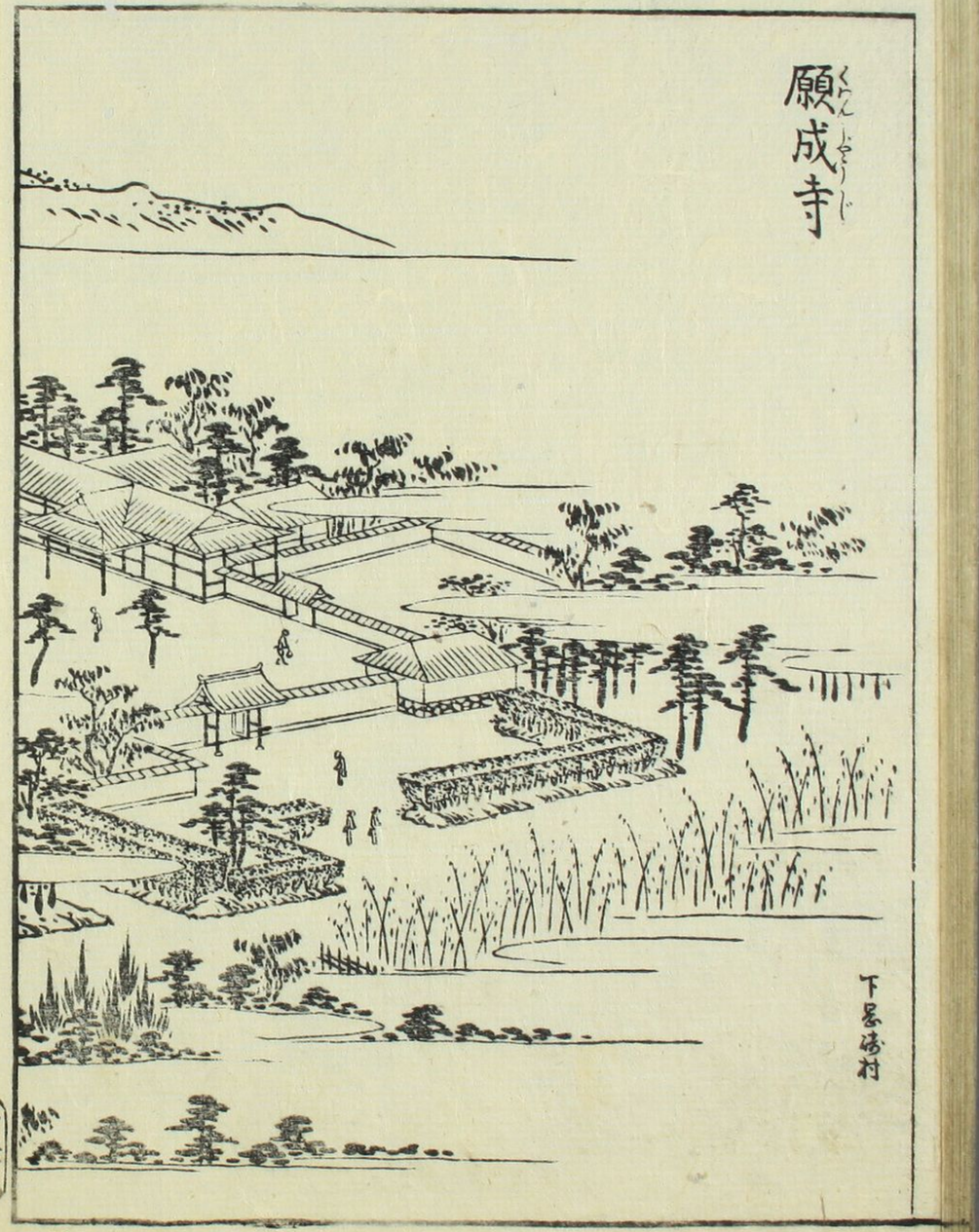
堀池　中岡崎黒谷門ふの南ふあり

下圖崎
滿願寺

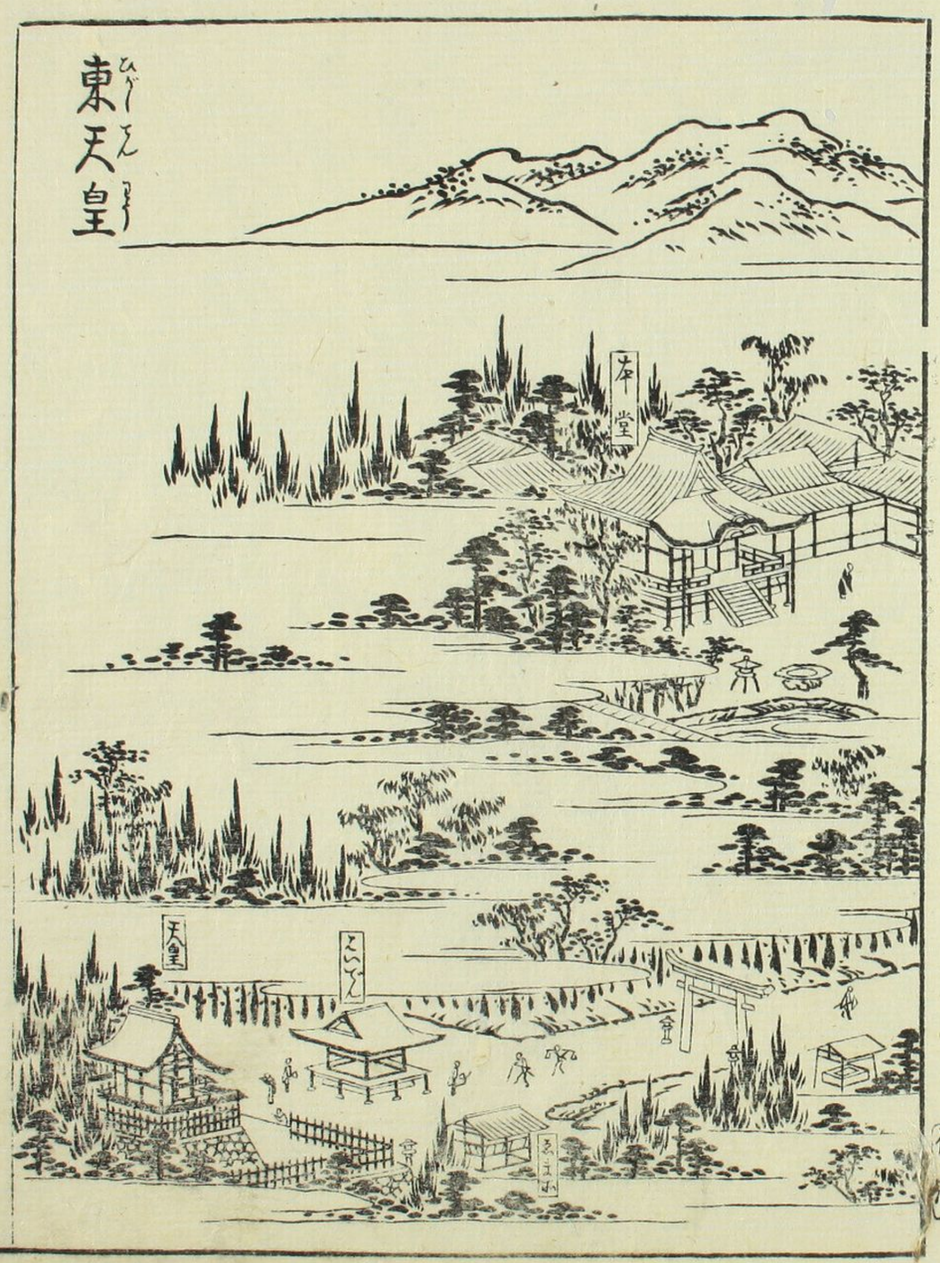




願成寺（がんじょうじ）



東天皇（ひがしてんのう）



聖護院　上岡崎の南　開基は智證大師中頃ならん三井の末門主法親王淨住職し
　西にあり
　　扨も修驗道を兼て山伏を官領し給ふ凡山伏は天台眞言の二流あり天台は當時
　　本山に屬せしを當山と云ふ熊野三山の檢校は天治年中僧正行玄より初る故其初
　　聖護院二品親王第五十皇子
草庵　　なりとぞ
熊野權現社　聖護院社内にあり鳥居は額當宮なり　後白河上皇の勅願にて
　日本第一大靈驗所熊野權現
熊野新宮社勸請し給ふ初は封境廣く去て宮殿ふ金沙を鏤め金樓門
　建之乃時は熊野より土砂を運つめて宮殿
廻廊扳舍經堂巍々たり　取初建立の地を點ぜし樹木茂りて熊野權現
ゑし植給ふ故ふ新熊野宮とも稱す今ある所は本社富士濱間社　稻荷社
　役行者堂あり
鬱じて山社の方境廣ふしてふくと老樹森々として木陰芬羽蟄時
　頓阿
〳〵炎暑の時納涼の地
新羅社　聖護院築垣の東頬ふあり中ふ新羅明神の小祠あり是三井なる
　護法神なるゆへ增誉僧正の勸請
飯成社　聖護院森の巽ふあり世ふおそれ給ふ靈驗いちじるくしてつゐふ詣人多し
栗田社　舊地聖護院森の西北ふあり
　傳へ云ふ天慶の
　治承二年正月建遣門院淨懷胎の時ふ惡靈出ふ祟

祇候院の神靈坂神ゑ明王乃縛ふ
今日北乃宮坂ヒトク井とゝ云ふ
諸神記ゑ

栗田宮ハ　崇德院　宇治惡左府賴長　六條判官爲義坂元曆ゑ
年四月十五日勸請しゐゑ建久四年八月十五日已酉糸を始む自今已後合
月中酉を用ゐゑう宮有を下されけれ共ゑ
上卿民部卿經房卿使内藏助惟宗久義應永七年九月九日當社の神
御精進也　大中臣日記ゑ　建武元年七月五日栗田社焼拂ふの所ふ畠中重遠
身命を弃て淨神體墨俵管坂取出奉ゐ文和二年二月網曰淨再建同六月
廿日ト部兼敦屋て遷宮を神主ふ隆昌重連兩人更ゑ五年完ゑれ坂補を
盛衰記ゑ
元曆元年四月十六日子時崇德院の遷宮あり春日町の圭の内の東ふ
仁所ハ大炊殿の跡先年の祇場ゑ中略又故宇治左大臣の廟日を東方ふ
玉葉　栗田宮ふ參合ふ寿海朝臣ふ逢ひ事坂せふいふ
伯をる一杯の契ふ
　ねしふ合ふ夢ふ
十訓抄　まろこふゆふ夢ふあり
　崇德院法樂百首ふ
家集　ふの日せゝまも忘ぬ松ふ乃神や昔ふまろ
　後鳥羽院
　但馬守
　家長
　奏

楸塚 聖護院森乃西南二町許みあり是則宇治亜相乃墓ふ上ふ楸を植々くれハ世の人楸塚と呼ふ實ハ花府頼安の社地なり塚を今田圃乃間ふ繞ふ一本霊験あり
ふて都下乃貴賤群をなして詣をなし又新みて古今ふかりてとぞ

善正寺 聖護院の東ふ二町ふあり法華宗ふて本圀寺ふ属す開基ハ日鋭上人本願ハ聖護院の小弥勒堂の西田の字ふあり白毫院日秀尼ふ則秀次公の追福の為ふ建立しもの秀次公乃法名妙瑞院殿高岸道意と号ふ當寺乃地ふ一宇之堂四世日演上人興起を図ふ楸乃一本ふ依て楸寺とも呼ふ

月輪 聖護院の小弥勒堂の西田の字ふあり聖人ふそくく居住しもの旧跡ふて今ハ民家ふ属す

右大臣吉備公像 帝天平五年乃帰朝ふて行基菩薩とまてふ拠ふ合せ千手の像ふ依て堂乃傍ふ観音堂乃建立ありしふ始まる

釋迦堂 俗ふ新堂と称す本尊ハ金銅の坐像九寸余ふて慶長十二年二月十三日肥前の国王名郷中村の民人霊夢ふ感ふて奥人乃細ふ堂ふ詣まて帝代乃霊尊ふて宗徒常ふ詣を為ふ建立しもの秀次公乃法名妙瑞院殿日秀尼乃則秀次公の母義ふ依て聖人旧乃別荘旧記ふ比叡山の一負ふありしふ依て聖人ふそくく居住しもの旧跡ふ依て聖人興起を図ふ

弥勒石佛 聖護院の小弥勒堂の西田の字ふあり聖人ふそくく居住しもの旧跡ふ依て聖人興起を図ふ

月輪 聖護院の小弥勒堂の西田の字ふあり聖人ふそくく居住しもの旧跡ふ依て聖人興起を図ふ

聖護院森

熊野権現社（くまのごんげんのやしろ）



極樂寺　芝増師の西小隣る時宗心僧都の開きそめし一條戻橋のかたはらに天台宗にて藤澤に属し初めは天台宗にて惠心僧都の開きそめし一條戻橋のかたはらに天三寸脇士左右勢子并運慶の作立像二天三寸計
本尊阿弥陀如来　右勢子并運慶の作立像二天三寸計
東北院　極樂寺の西小隣る時宗にて藤澤に属し本堂の額は東北院と書して　坂西院の震筆なり
本尊辨財天　傳教大師の作立像二天三寸計　脇士左毘沙門天は作
圓白道長公像　右大黒天　衣冠束帯坐像一天計。道長公は圓白兼家公の男正一位攝政左大臣万壽四年十二月四日薨御を法成寺殿と号し
和泉式部塔　寺内にあり　雲水井　堂の西小あり　軒端梅　日所小あり
祈いのへの東北院とていへ上東門院の御願ありて御父法興院殿圓白道長公九條の法成寺の傍小つくらせ給ひて後世継小給ふべくうつくしき拾葉抄小一條の御系抜れ東三條院の御所法成寺の西東小の隅うつくしき枝葉略記小長元二年八月廿一日上東門院東小院を供養あるべしより後世能くとり行ふべき事を書て落慶の導師に僧正慶命うつと釋書小のせたる又永承五年十月十二日小は　天喜五年東小院小初菜なり由百練抄小あるをもてしるべし
元真如堂　真如堂の本尊たる初メ叡山常行堂に在せし時一條院の御願にて建立ありし尺余の檜木千本一夜小生ひ出くるは所いと其時の舊地なり
本尊阿弥陀佛　慈覚大師の作立像二尺二寸　白河院宸影　同女院御影　共小画絵あり
蓮華童子附属瑠璃壇　真如堂草創の時童子と人蓮華織の錦の囊小土佛観無量壽経を説き給ふ時無数の衆生法を聽て得道し頻婆娑羅王葦提希夫人往生なりけり阿闍世王も善道小帰入せしと云ふ其説法の座下の土と早七寶の壇放築てし霊土を取め其上小如来放坐しめなれば永くもつて佛法擁護とべしと云ふ又曰我名放蓮華童子とらんまし
あるべん佛圀のかたわらに圀仏井を堀へしと在坐の所小八必醍醐味乃清泉
是放行所なりとひ畢て去りぬ　醍醐水　堂のか下壇の地小あり

東三條院　日所二あり　五輪石塔婆之由緣

神樂岡　吉田ふもとより前緣小あり

新六　君が代を祈るいのりの神垣も
後撰　吟雪集　春ごとの花のみやこのすみかにて　衣笠内府

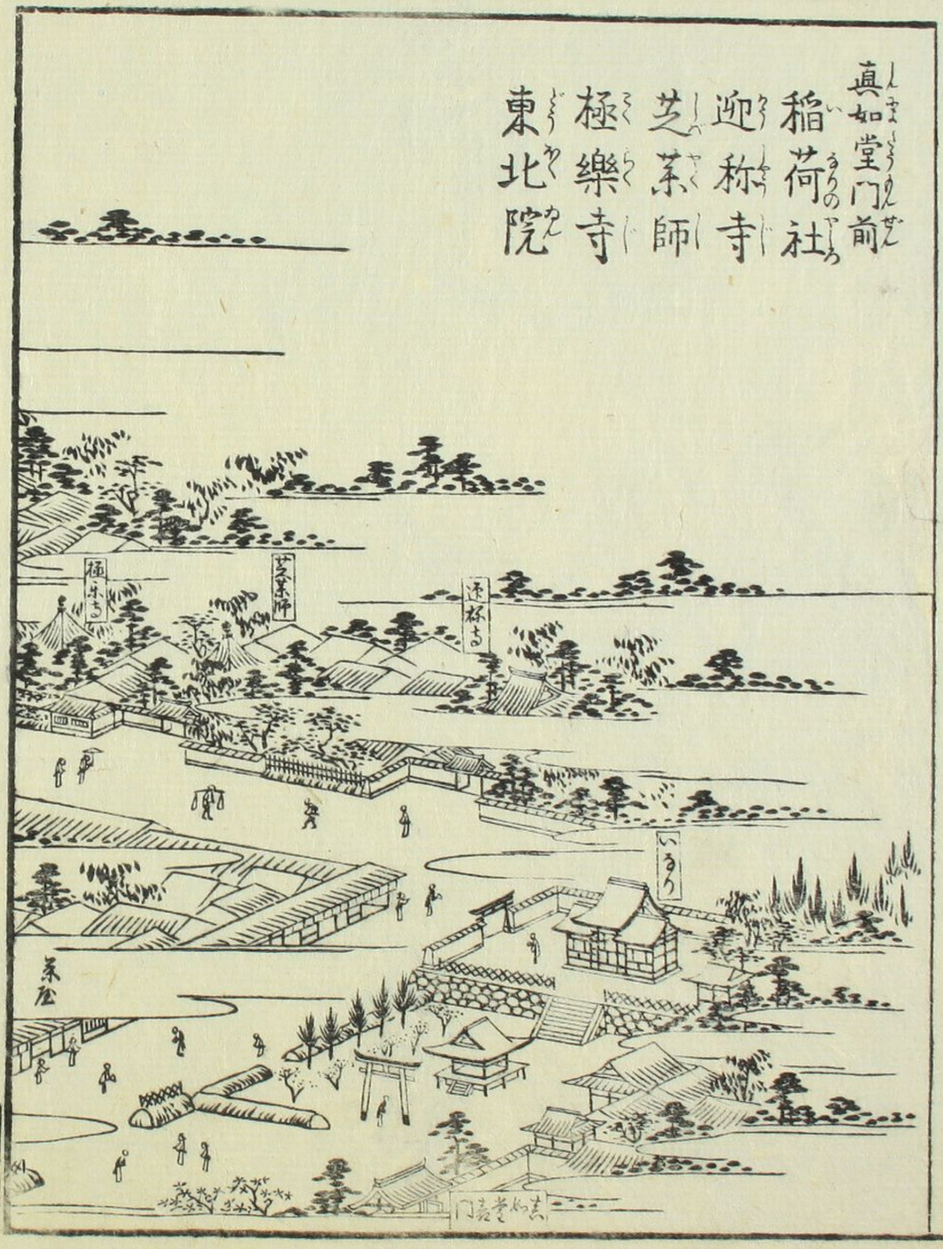
山林　三六十二　道　眞

坂根の茶
りえ出るに
ようやく春
ふうく
つとうそ
ゆるくくる
ようかとも
かこの門戸
ふるき小霊宝
のかまくら假茶
店おおくれ
越ようくおよ
くるは真丸
まる越くる
つへべき






東小院
多天
速超松
別堀あ
もみ
つつじ
茶屋
稲荷社


真如堂門前
稲荷社
迎称寺
芝茶師
極楽寺
東北院
芝茶師
極楽寺
迎称寺
いろり
茶屋
真如堂門前

智福院神樂岡の南ふあり開基弘法大師本尊虚空蔵菩薩秘佛周子三重ふして外ふ注連を張る當院ハ吉田社辻坐已前より此地ふあり

西天王社ハ所在本社の下壇ふあり例祭ふれ六月十六日社礼一基神牛頭天王岡崎天王と一體の社と

木瓜社西天王のまゝあり例祭ふれ八月廿四日社礼一基

春日社ハ所の小の中壇ふあり名所圖會ふ見へ鎮坐ハ清和帝貞觀年中ノ中納言山蔭卿加て勧請しまつる一説ふハト部名の最祖氏延の勧請ともて南都平安城より行移遠くしもあらす皇妃まんの社叡をかんそうとも門外のむかふあり勅使塚ハ若宮ノ小祠ふ近く當所の地主神みて延喜式神名帳ノ曰霹靂神ふあり

若宮ハ春日明神と申し神傳ふ大和國春日社の異ノ人ト部兼倶霊社神前大明神と称そ

神樂岡神靈神山城國神樂岡ふ坐そ

新長谷寺春日社の下壇の地ふあり寺説ハ春日社の神宮もふ彼郷ふ別長谷寺ふ詣して千手の像ふ感応ありくまそと北しくる唐士より渡り来る楠檀香木ふて千手の像ふ造らん事ふ祈誓ふ依て彼郷ふ遷座ふ中納言と共ふ此地ふ来り其材の余ふて霊像二体ふ造之を足卿摂州嶋下郡惣持寺ふ安置ふ依て佛閣ふ長谷の観音ふ象ふ号ふ洛陽巡礼の第六番ふ当ふ

本尊千手観音ハ六尺二寸ふえ此地ふ中納言山蔭卿ノ殿宅ふて千手の像ふ造之ふ依て洛陽巡礼の第六番ふ当ふ

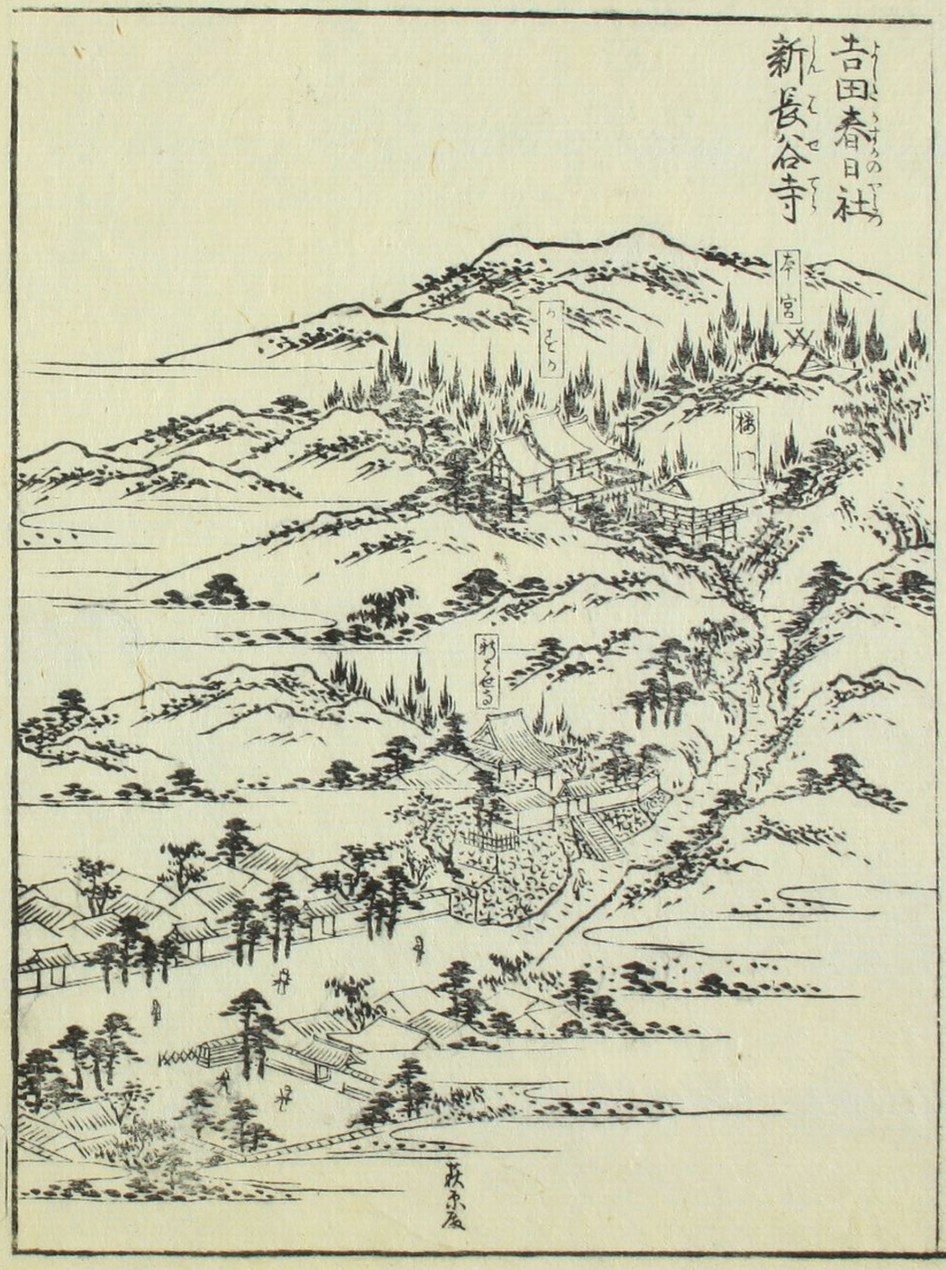
吉田泉殿吉田の西北ふ泉殿と字の田地あり水石の跡今ふ殘まる明記曰白河行隆卿の宅ありとそ



涼しさを
野ふも山ふも
今佛哉

去来

吉田春日社
新長谷寺

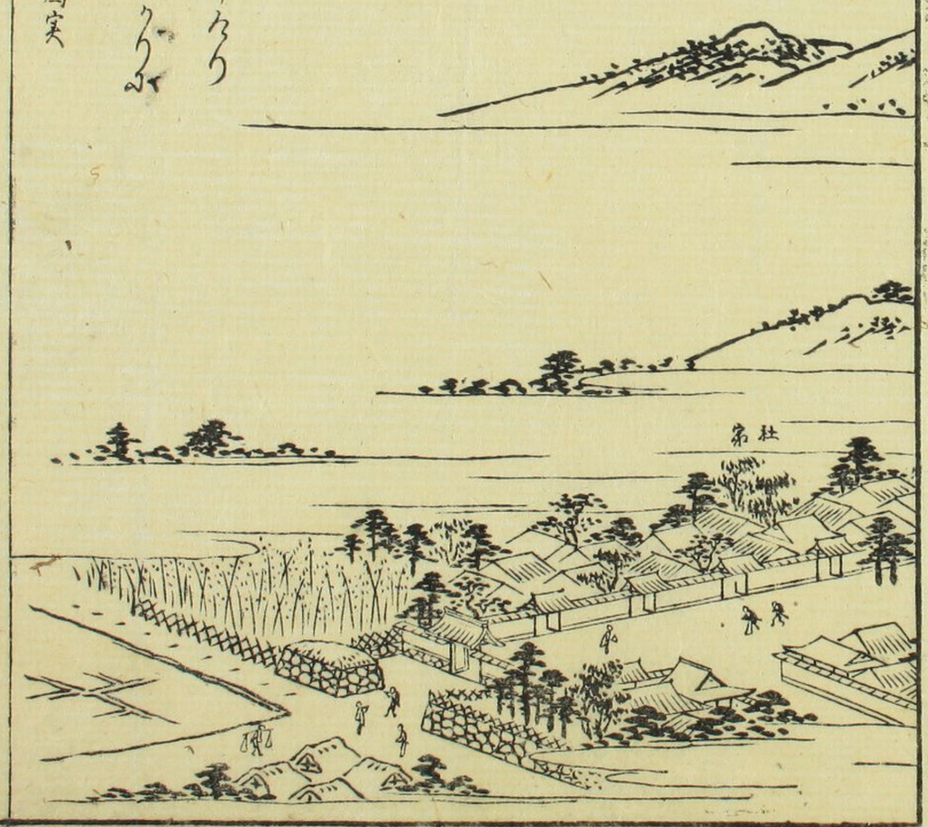


文木
いまし吉田の
森は萩乃花
ゐてそ見
仲の
もろもろ
まれ

聖宮左大臣

玉葉
そへられし
おむ文字と
成りぬる
只山蔭の名ばかりぞ

従二位
為実



伊澤

業平朝臣廟 吉田の奥ふあり（曉筆記云かの中將業平朝臣元慶四年五月九日病を發し
ほサ八日ふの卒生年五十六歳小面ふして舁はらるゝまゝ淺去坐祠
ふ祀ると東ふ吉田乃奥ふをとり拾て廟祝はとり天曆元年七月十一日
花少納言清原元俊ふ俤て
中將の靈を神と崇めまつる

二本松 吉田村の外西小一町計ふあり一本松二本松乃南落の橋ふあり
いつ〳〵乃日乃社ふあり淺二條の院の
身隱森 太葬所吉田の乾ふあり淺二條の院の

法性寺 鴨川の東岸今出川橋の南ふあり法華宗開基ハ阿闍梨朗慶之
初ハ相別鎌倉ふあり本國寺と共ふ祖師ふうけ其よりそを
遂下壬生ふあり其後京極今出川ふうつゝえ祖年中衰焼のそは地ふ
うつる當寺の鐘ふ筆盤形の模樣あり淺人皆てお異と云
正栄寺 法性寺の小ゝ隣ふ淨土宗正栄寺乃末社ふあり
常林寺 降土宗
長徳院 開基唱譽上人常林寺の小ゝ隣ふ淨土宗
開基觀譽上人

武藏寺 紀の東一条寺道の左ふあり法華宗當寺ハ江州儀井の家花武
地藏堂 薮内藏亟開基と云ことのあり
うつ宅放物して寺とゝし七支の追福を修し則生乃実名放ふく開
恭ちと号た其後秀吉公薨去ありて御名字放物して武藏寺と号そとうえ傳説ふ委藏坊放慶獻之
てのの名字放物して武藏寺と号そとうえ傳説ふ委藏坊放慶獻之
出てし所ふ住そとうえ大まる謬之

青龍寺 田中村ふあり天台宗坂本西教寺ふ属ス本尊ハ地藏尊の小野篁の作
惠空和尚當時ハ女傳住職を

佛々 百万遍西門の前畠の字之初メハ此地ふ在之延命地藏尊春日の作之像ふ天計
小佛々とゝひし故土人字とそとうえ本尊ふ上と同作初ハ京師水落西光寺ふあり

地藏堂 旧所西門の外南向ふあり帝陵記曰
脇士左不動右毘沙門共ふ上と同作初ハ京師水落西光寺ふあり後二條帝陵

後二條院陵 百万遍の東二町計路傍の小ゝあり帝陵記曰
山城國愛宕郡小白川村畑中ふあり字放福塚とゝひ
雍州府志曰勸修家の一代五條大納言國綱卿の墳ふ在ル延國綱卿ハえ冨
有乃人之五條内裏放造ル之依テ其四年平相國清盛公の勸ふえてよりて
非放摂別福原ふ遷しゆ其時國綱ふ里内裏を造ルしむるゆえ
雙ふた大福長者ふうと平家物語ふもうんくうれえ世人福塚とゝ
物ふ載ふんの山別名跡志曰中頃ハ陵の巡回ふてつゝふ形ありて仍そ
とゝひし淺慳んで平之足ようむうりむうよう
ふ祟ふ霊神ありそて恐まをうる
ふえいある武家の士淺人とうり殺生放ぬえそれく生質を猛勇うる勢
ふ此塚のうへう萌茨生くそれく来こと
放ぬとかの者ふ祟ふ柔へしそれく塚のうへふ小祠ありを首放
延く白眼勢あり強気覚へだし
死ととゝひし

二軀石佛 陵の東白河道の左傍ふあり二軀共ふ坐像四尺計甚古拙ふして
希代の大佛之合運圖ふ寶徳三年二月小白川の佛像動く
とゝひし像うんの作之秀吉公の時聚樂城ふ移しそれいし像
敷聲放發して白ふへ色せと像動をそれふまりてえとの坂ふうと
陽成院陵 日本略紀云天暦二年十月二日陽成院を上皇放神樂岡乃
東の地ふ葬る帝陵記所ふまとゝ云信西の女天下第一の美
小督局家 白川の坂ふ在ル人之容色うるふ美ふも世ふ勝まそ白ふのまふ小督ふ俗ふそれいふ

鴨川の西岸二条本
陣の途中旅宿の地
てあり東は高野
愛嶽の川流あり
ある神楽岡のみ
やしろ新黒谷の
寺院もまの間く
あつらへ近く東の
堤板ゆきゝそろ
人さまでもにぎ
水真を饗應ふ
かさう

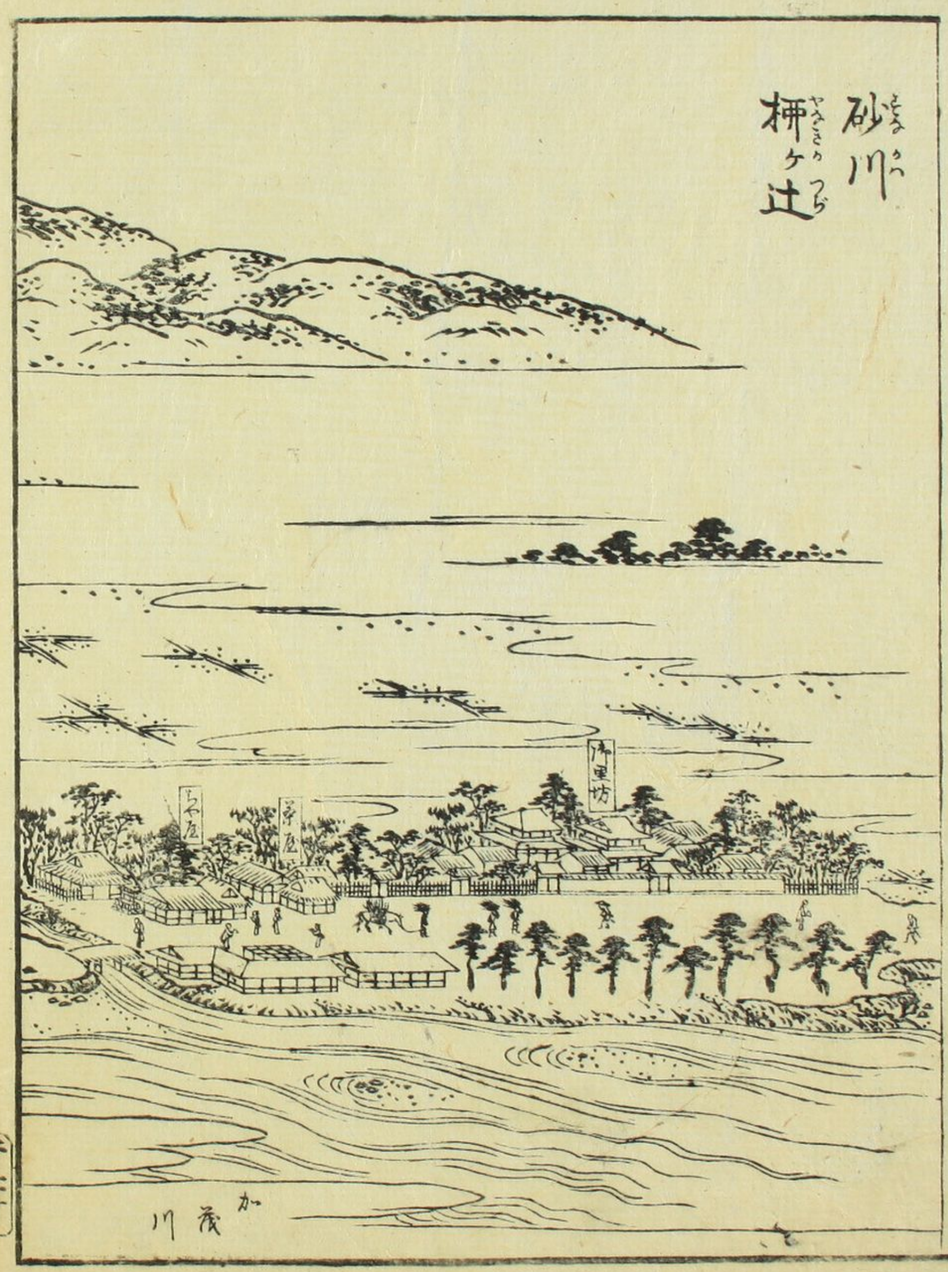




浅擬
加茂川の
水屋涼そ
照月を
ながめて
こんとうや
友扇そんぶ

浪人
そだち


如意嶽
砂ヶ森
名栗川
山伏峠
法性寺
名栗村
清水堂
との川
飯能


砂川
柿ヶ辻
伊里坊
かわ屋
かわ屋
かわ屋
川越

千葉寺
青龍寺
武藏寺





萩蔭や
冬の日和乃
千葉寺
探美

源之位頼政山荘　黒谷の東中山小川頼政入道三品中山小御所と申山堂希小山荘等焼失そこ是則高倉宮へ参らせ給ひ三井寺へ入道三井寺へ智證大師の御影并明王智證大師の御影一尺餘　開基の霊鑑院尼公みてく宮叛供奉しまする時加賀守そこ久しく住職し代々比丘尼寺所御住職し来霊鑑寺　鹿谷ふもとあり　禅宗　坂水尾院皇女妙法院尭然法親王母公之もんろ代々比丘尼寺所御住職し来

如意寺　霊鑑寺の南みて谷坂隔て隣ありて諸堂巍々うつくしく総門甍基智證大師御影巡覧しまする所ふ忽然として一つの庵現出れふ観世音乃霊像現然さうけ平均うち大師の装ひ飲喜して當寺の本尊とうらし坂霊鑑寺尼公再建あり遂の世滅亡し久しく荒廃の地となりて舊地の麓今の所ふ小堂をいとなみ霊木杉の大木みてく老樹之鹿宮　坂の傍ふあり

龍王宮　如意寺旧地の東ふあり如意寺ふ至は行程二十町三井寺ふ至は行程二十町計みてかの寺の講堂の前ふ出ふ

楼門瀧　谷の上ふあり山峰ふ名義詳ならず波辺年都下の諸人群参し霊験新之傍ふあり

池地藏　其地の名義詳ならず波辺年都下の諸人群参し霊験新之

葵谷　龍王宮の所ふ城迫口の堺うち

千石岩　葵谷のた三町計ふあり高くして傍地千石も積上しかと

如意城　旧蹟　細川晴元再興を図年三好長慶放火しても亡しめ

大豊明神社　鹿谷村巽の方ふあり祭神牛頭天王すさのを尊

辨慶屋敷　日村の境田の字ふあり

十禅師社　鹿谷の小銀閣寺の門前ふあり祭神山王十禅師之日所ふ

中尾山　銀閣寺卯辰の間五町計ふあり

白河　水源ハ山中村よりおこれて南ハ賀川ふ入地名ハ小白川と云

名寄　拾遺集　玉玲集

拙子の花いあてこそ植うれ
春とし人でさそゆく風ふ立波の花乃白川の里

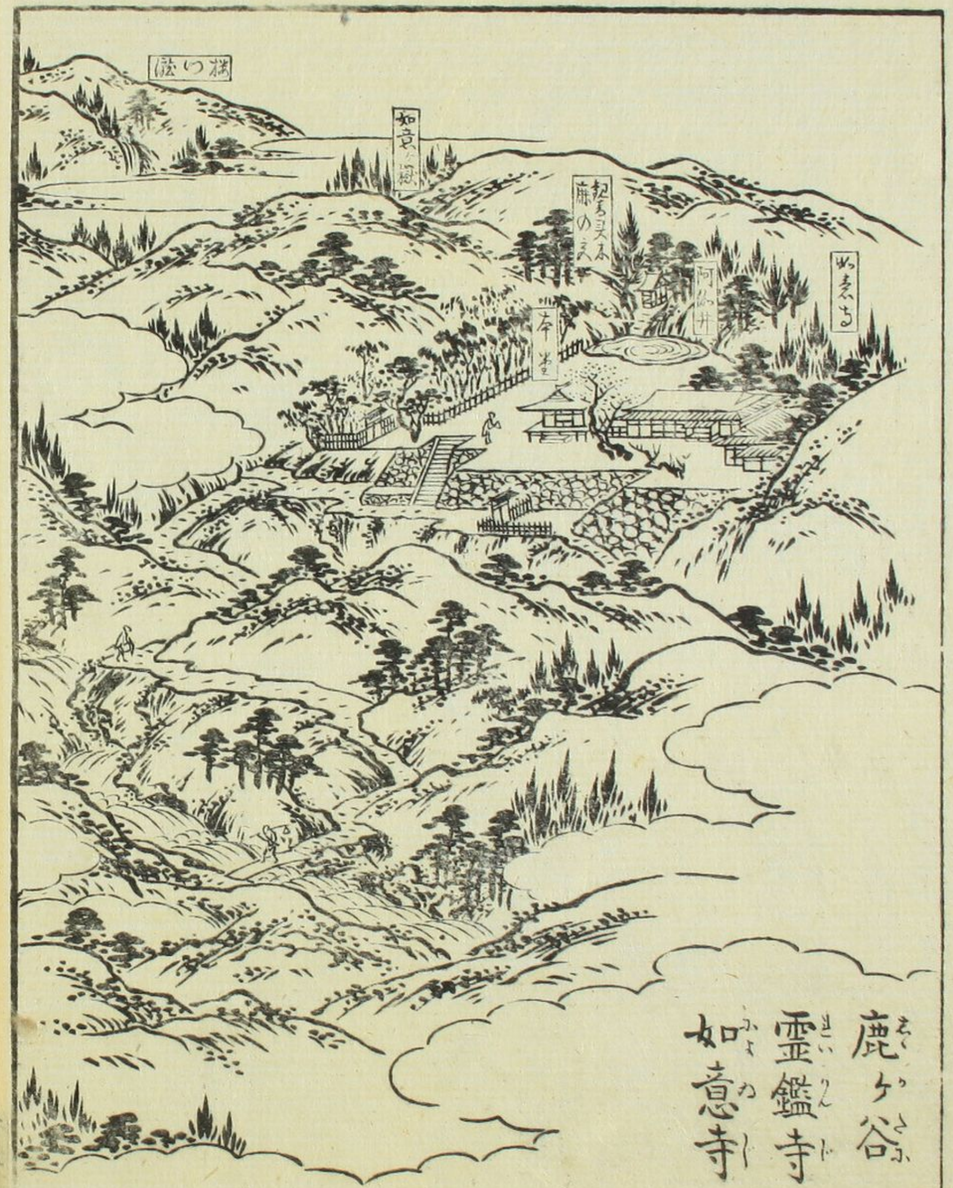
波の花ハ松乃嵐ふ宿ゆ知

白河陵　延喜諸陵式ふ曰皇　陵戸三烟

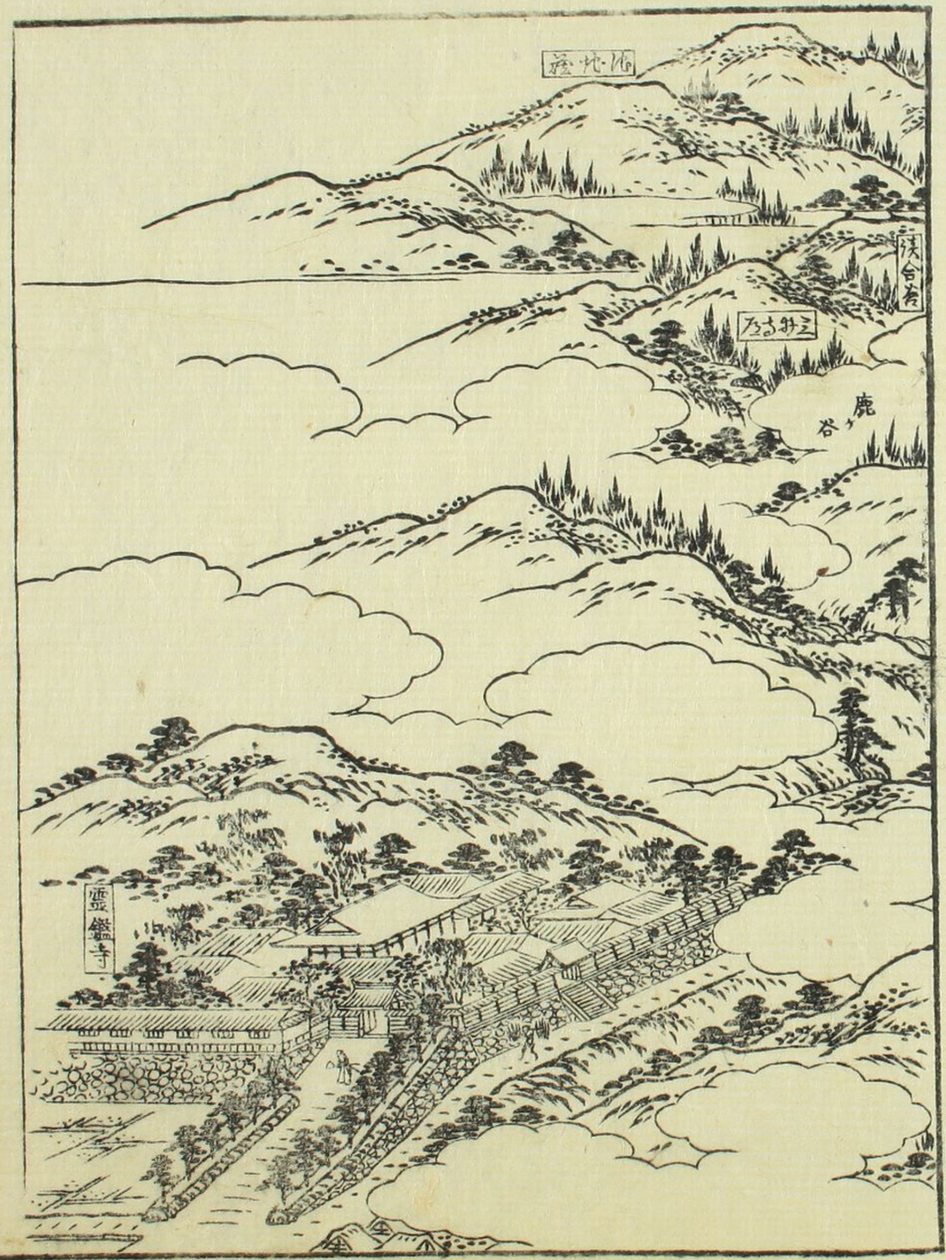
愛宕墓　日諸陵式ふ贈正一位源氏清和ふ上天皇外祖母山城國愛宕郡ふあり文徳實録ふ齊衡三年六月正三位源朝臣潔姫薨を白川の地ふ擇て葬る

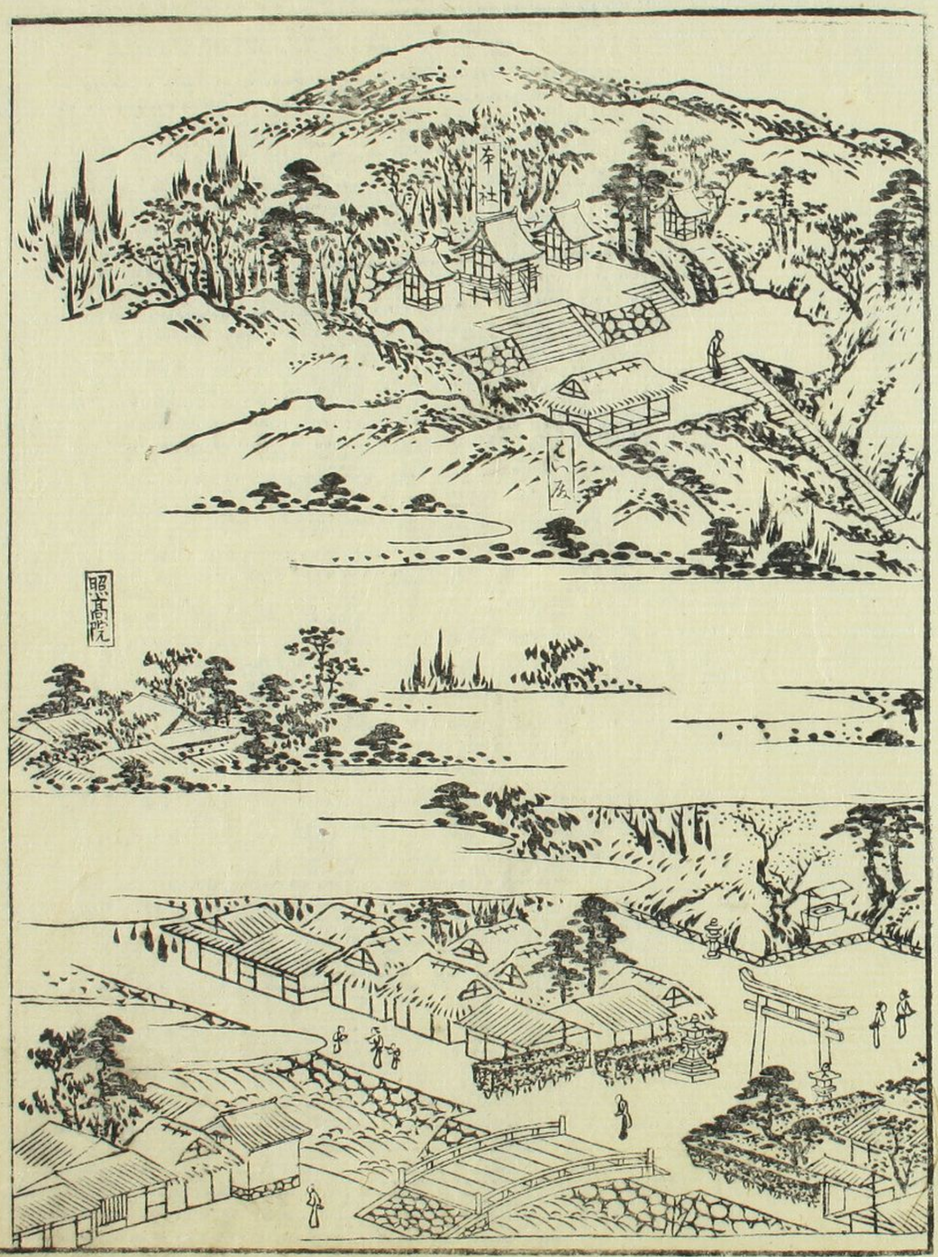
後愛宕墓　三代實録ふ貞観十年九月二日ふ従一位藤原朝臣良房薨を正一位忠仁公と諡を古今ちの波おちそそたきりの白川のいわ井のあらふ春までの名こそそたえね

素性法師

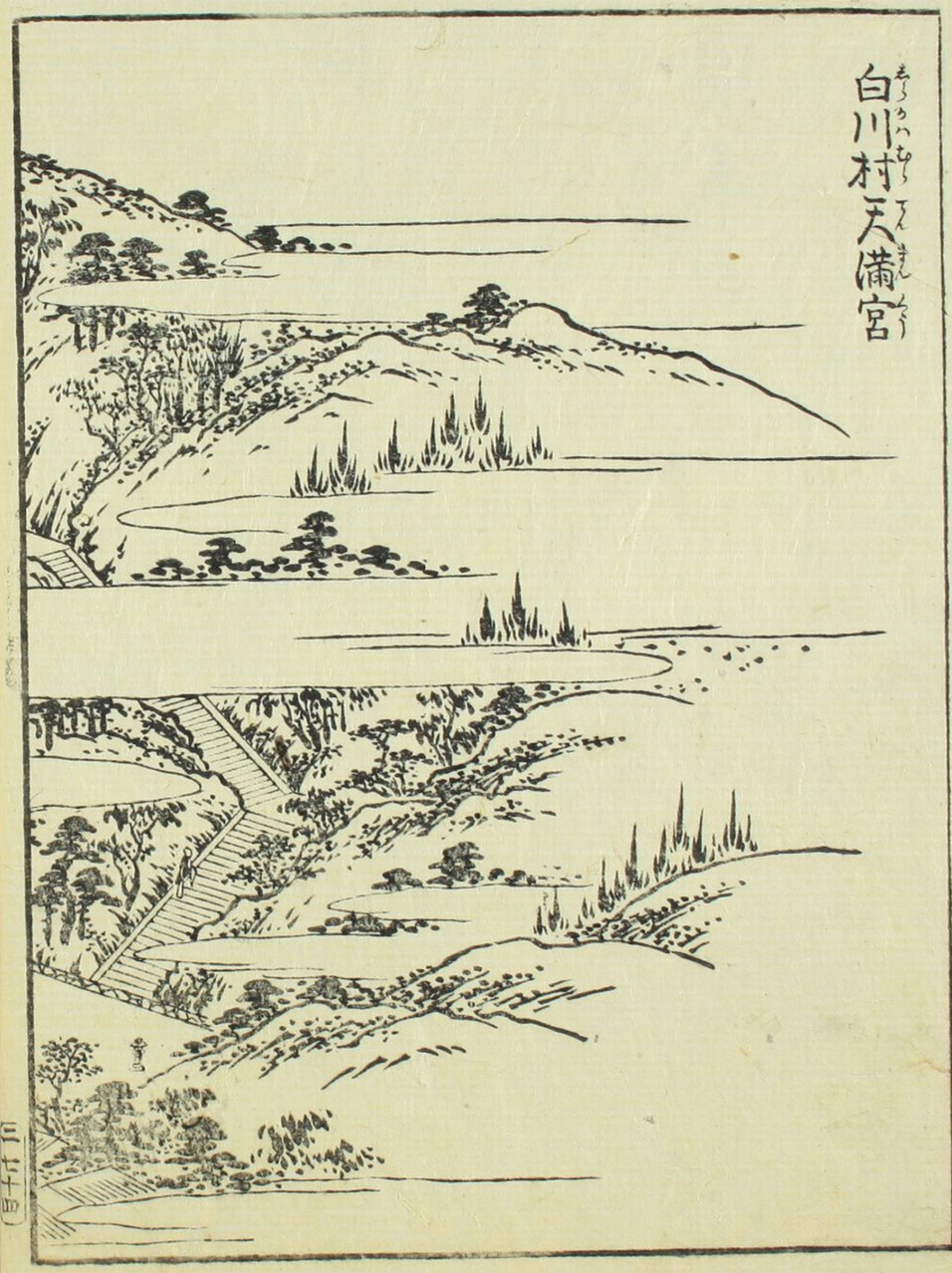


鹿ヶ谷
霊鑑寺
如意寺



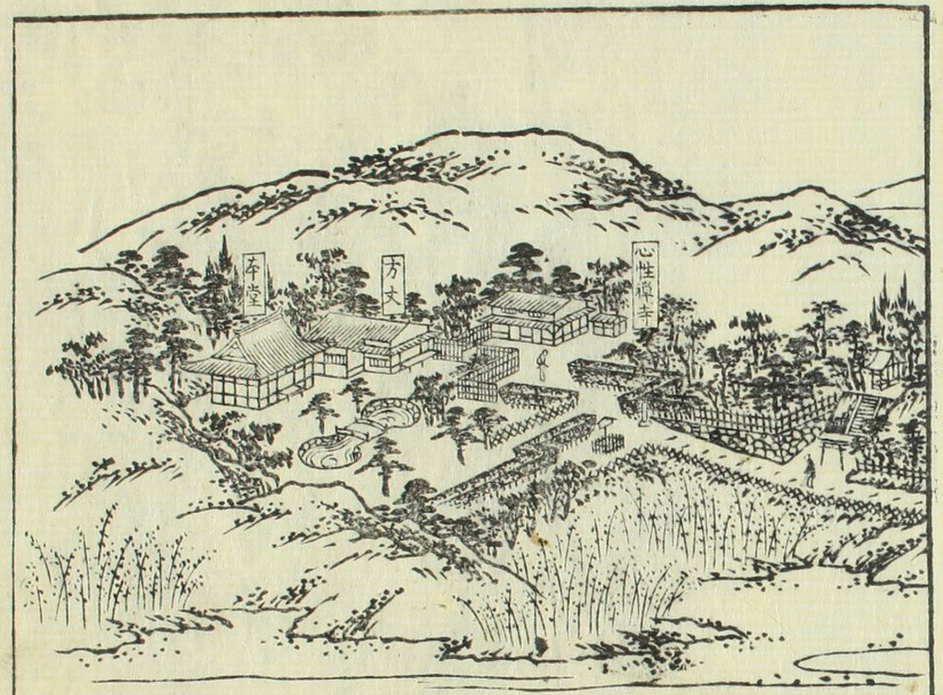


伊勝

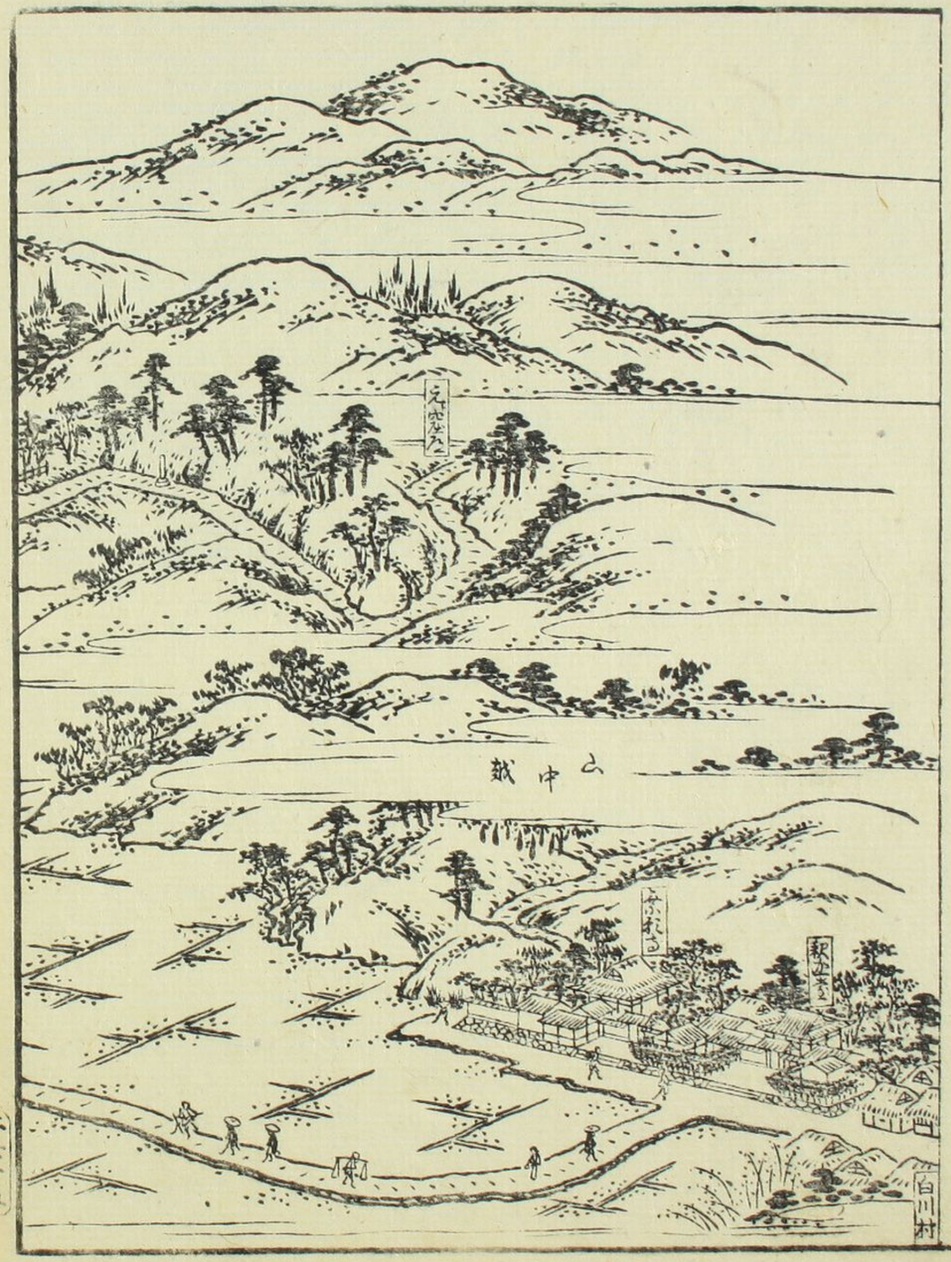


白川村天満宮

白川村



白川
心性禅寺
衆願寺
釋迦堂



貞信公亭　いまゝへ小白河のふもとにあり白河殿と云

今詠あり　貞信公

物ほしたわかいまうちきこの白河のふもとの里人のさとしみるかな

後撰

きよ[延長八]年とさのふみそうして承平又年ふ[貞信公]たゞ大納言白川殿ふかうせたまひけるまうとやまとびよめる

家集

百草の花もてそうえしつゝもたれか公任卿山荘

小白河にれうえふかれたるをみてよめる

人こゝろそれもゝくさの宿のあるしぞ公任

敦道のみこれうせんの大納言公任の家にはなありけるをみてよめる

拾玉

おきそめしその人もなきやまさとに花こそ宿のあるしなりけれ

新古今

花ゆへにこゝろおくるゝ人こそおほかりけれ中将實方家

物ほしうて十月ま白川の家はなありけるをみてよめる

新古今

ふるさとの花をだにこそ宿のあるしなき世ふ前大納言公任

北白川天滿宮　白河村南の方ふあり土人生神と仰ぎ例祭ハ九月十二日神輿一基ある

照高院　旧所ふあり聖護院退院浄所之内基ハ興意法親王御筆之勅額道晃法親王御筆之勅社ハ山王若日吉ハ幡宮寺と号し殿舎ハ伏見城拠の丸を引移し道晃法親王修補ふらしめ給ふ

照高院宮ふらせ給ふ

貴重集

あふぐく度ふ白川面影のまちくらんかな

文禄四年九月八日三井寺講堂再興をて勧進立らもしに照高院宮へまいりそやくをせ給し

玉葉集

たこふきる三井の流をなかそそれをも

寛文之年正月廿五日行幸白川照高院ふあり

御製

皆為行宮

照高院道晃

里の名ハたゝる雪にあらねてもしる雪の名ハ世ふあらん考えのあ

心性神寺ハ旧所小の方ふあり禅宗ふ本る八阿弥陀佛の坐像二天始祖基ハ

三岡龍松尚之助所筆ふて洛陽の萬戸眼下ふ遮る

瓜生山　心性寺の艮ふあり元将軍地蔵の地之則古城の形存をまゝふ編ふ

新勅撰

いんそこもりてをる瓜生山禅寺ふ参ふ人とゝもふ

名寄

名ふるくうてめつる瓜生坂旁のこ六ふ人とゝもふ

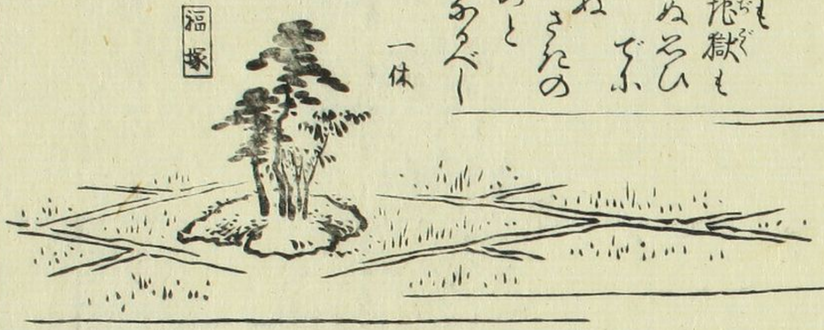
謙徳公

恵慶法師

小白河の石佛は希代の
大傑みていづれの代の
作とつく事をえ考へ得ず
孔子のごとく西
方の聖人あり乱だ
言ことといふもの
をやいづれ



極楽も
地獄も
そこぬそひ
ぶ
生れぬ
さきの
ものと
あるべし
一休





頑仙祠　一乗寺郷中舞楽寺村戊己山上ニ町許ニあり　高サ八尺餘の自然石ニて墓前の石壇之間許石燈籠二基巡ニ大木の松三株あり　北ハ低地ニて畑ニ隣ニ小谷あり　西ハ山ニて寿塘ハその巓ニあり

○石川丈山の姓ハ源氏諱ハ重之初の名ハ嘉右衛門後ニ左親衛ニ改む一の諱を凹字ハ丈山之六ニ山人と別稱して世ニ列ニ行ニえれど卯五月台命を蒙りて園ニの　所陣ニ烈ニ鞫ニ営中を出そ不意ニ故軍ニ入甲者二級を得ら其后寛永十八年官を辞して羅山子を友ニ常ニ詩ニ咏詠ニ諸山の名勝を訪ひ台蓁の一ニ築きを相て嘉遁の地ニ芽を把て屋を構へ新ニ詩仙堂を営ニ誓って鴨川を渡らざる塾居ニ終ニ寛文十二年五月廿七日ニ卒ニ年九十歳其餘ハ前編ニ記ニ丈山年譜ニ正保二年擇地舞楽寛文十二年六月碑石ニ建る席ニ文ハ繁ニ略ニて左ニ署ニ其銘曰

有器識　居林繞　安義節
泥蝉冠　懿哉徳　天地寛　　柳谷散人埜子苞父識

抔ニ北ハ西ニ面晴ニそ皇城の萬戸雲のごく連ニ東ニ山を巡ニ高野ニ鴨川の流ハ月を揺ニ波ニを高低ニほのニ浪常ニ寂寞ニして英名ハ歳々ニ添ニ寛ニ

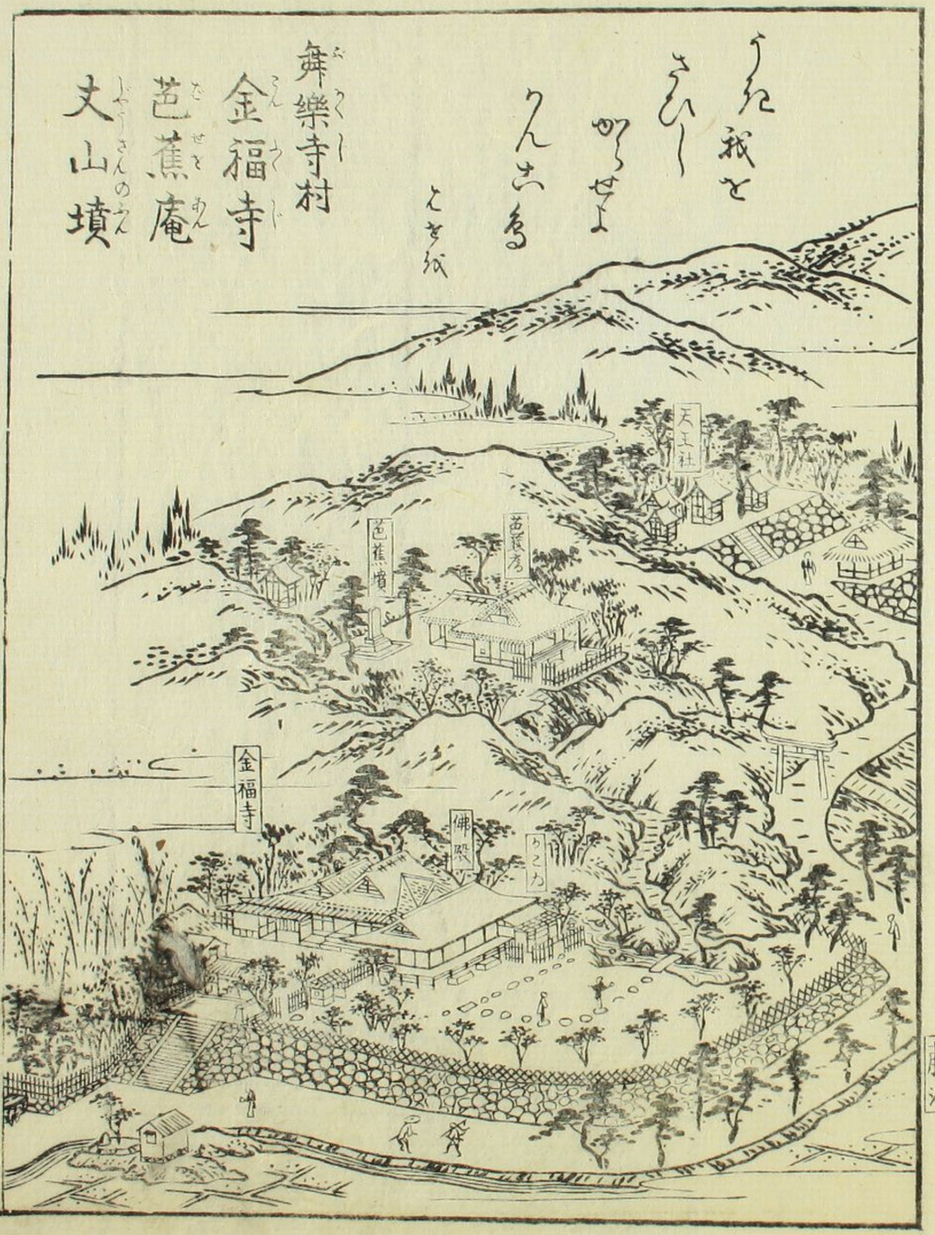
滿林風雨精霊を護ニしる東坡ニ蜀山の古廟ともニ悲ニはニ

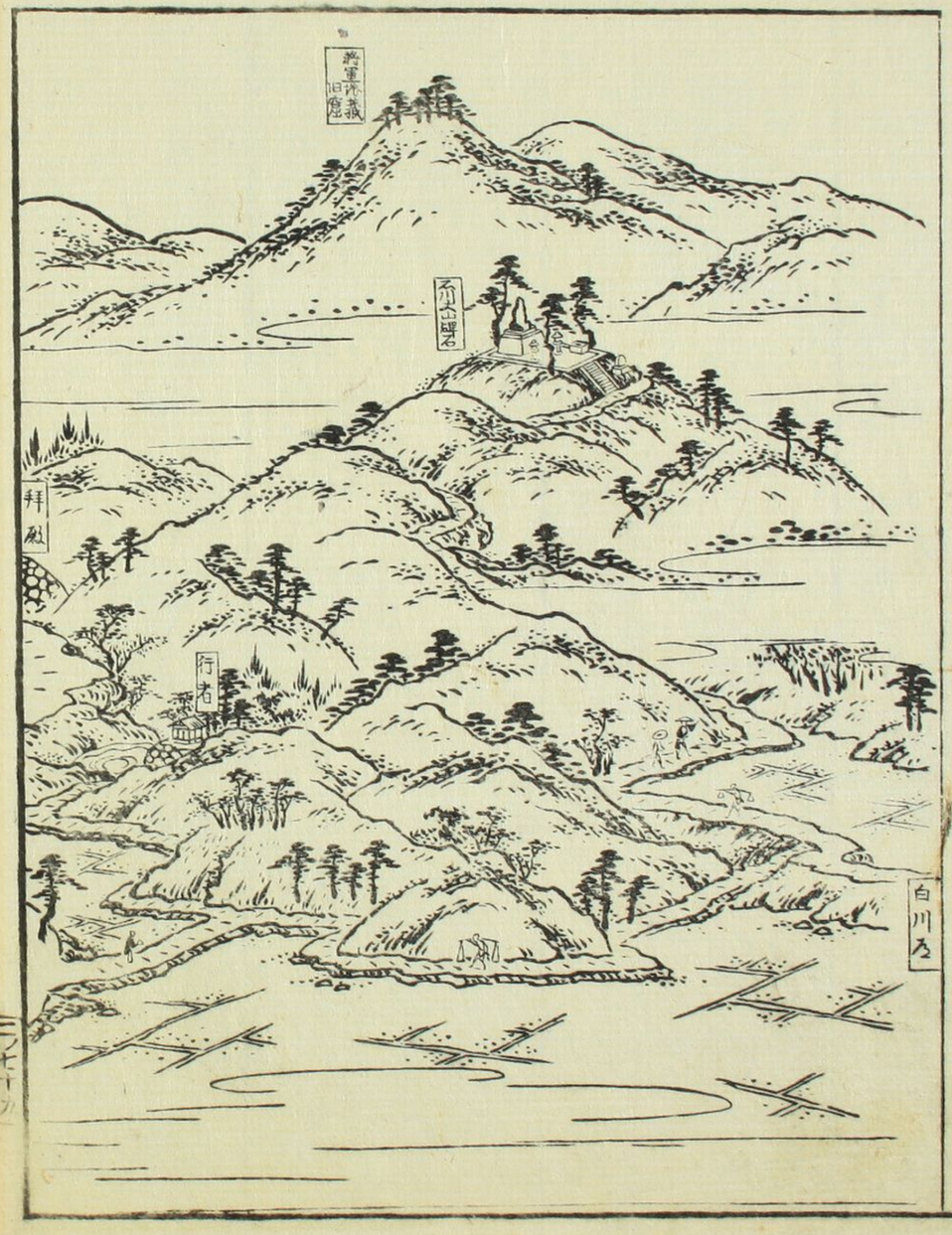
舞楽寺天王社　舞楽寺村ニ鎮ニあり　舞楽寺社八大天王西方未社　諏訪八幡いわゆる舞楽寺ニ云ニ舞楽寺ニとハ此ニ社ニ所ニ在ニ八大天王ニ多ニくして拠ニ遺の地ニ云ニ薩戒記ニ云應永卅二年九月舞楽寺一乗寺ニ多ニ遊覧ニ又二水記ニ云永正十四年十月将軍一乗寺ニ来ニる舞楽ニ拠ニ遺ニ云ニ

金福寺　舞楽寺天王の下ニあり　禅宗南禅寺ニ属ニ中興ハ鉄舟和尚ニ云ニ

芭蕉庵　ハ所ニ号ニ年久ニ毀頽廃ニせ序ニ見ニへニうニ又庵の北ニ芭蕉翁の碑石あり清田文鳥ニ云ニ翁都住ニ来の時ニ門ニ人寄宿ニを故ニ芭蕉庵と名ニ敬義ニ予仲氏第二子出嗣ニ楓口氏ニ為ニ吾藩同宗川越侯源公知ニ京邸ニ事ニ慧ニ而不苛ニ介而能ニ圓多ニ諸技藝ニ其ニ於諸歌ニ蓋亦ニ有ニ師ニ受淵源ニ云道卿ニ与ニ翁生不ニ並ニ世出ニ處異轍ニ而心酔不ニ已至ニ有ニ斯挙ニ蓋ニ有ニ臭味ニ相契ニ於ニ喪者嗚呼翁者予義祖所ニ交ニ而道卿尸祝焉予豈漠然ニ銘曰

才腴貌瓌　錦心綉腸　行雲流水　十暑三霜　野老爭席
桃李門墻　人與骨朽　言與譽長　勒珉此處　建冢多方


舞楽寺村
金福寺
芭蕉庵
丈山墳
天王社
芭蕉堂
芭蕉塚
金福寺
佛殿
かこひ
藤江


拝殿
行者
白川ノ

維斯名寺　風水允揚　卜隣高士　瑰其歸藏　雖非桑梓
維翁之鄉　越國文學播磨清　絢撰　平安處士　永忠原書

寫經社集序

四明山下の西南一乗寺村ふ禅房あり金福寺と号く生人口称して芭蕉庵と呼階おのう翠微ふ入ること二十歩一堤乃丘あり左右乃人家ふ遺蹟ふ富めり東ふ一水ありて緑苔やゝ百年の人功ふ成りしを知らず樹蔭多く幽寂ふして水行ふ舟ふ乗りて来ふ人ふ非ざれば俗塵ふ染ふこと稀なり一炉の茶煙をふくむ古の情ふ堪へたり

[illegible]

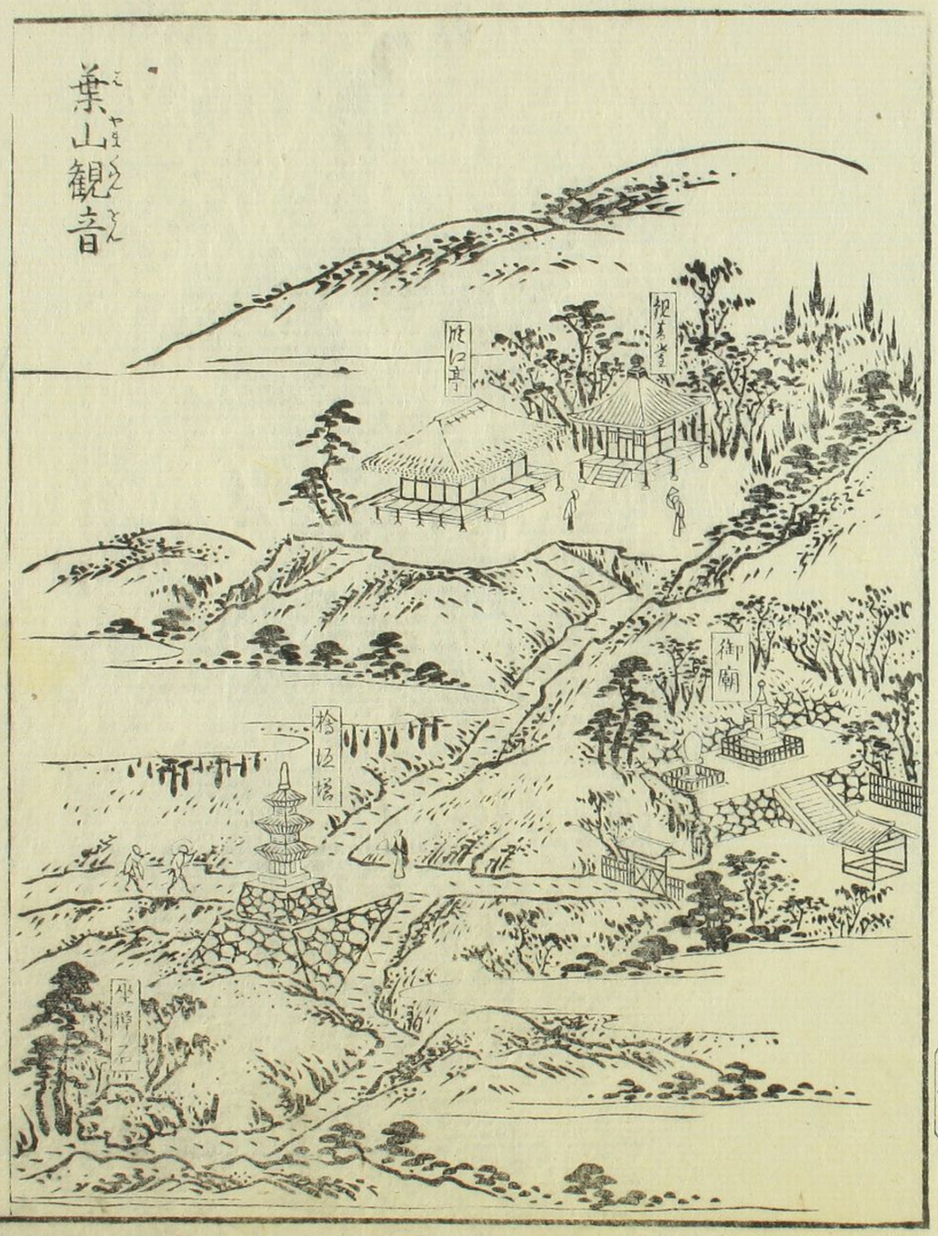
[illegible]

[illegible]





一乗寺村
圓光寺



瑞巖山圓光寺一名寺村天王の東二町許ありて禪宗南禪寺末に屬して本尊千手觀世音運慶の作坐像二尺餘なり東照宮當寺境の山上に鎭坐し中興之要和尚勸請し奉ります所之宮殿白木造りにして壯麗之を委の名跡志ふんへんなり

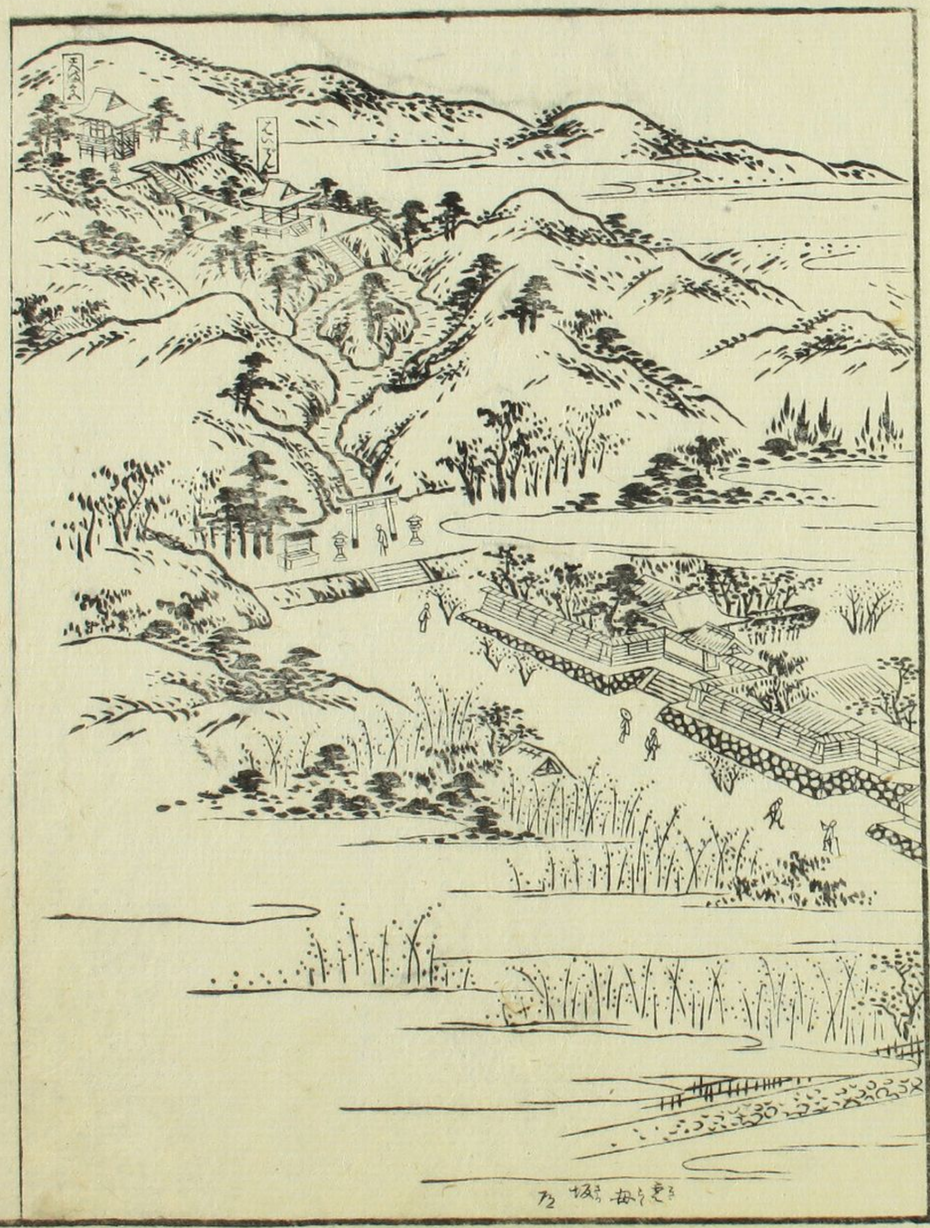
抑當寺ハ野州足利ノ學校を慶安年　台命を以て伏見の板閣を移し其後相國寺の西ふうりん寬文年中山水の美觀絕勝みて真妙耳峰祖禪師ハ受足利學校ノ傳九世之又印板漢字十萬字朝鮮の書籍二百部　台命ふよりて都鄙ノ國學旅學しむ故ハ洛陽の學校とハ今の世ハ力者大物を牽動をまねふ之要々々といふまで當寺ふり起ともいひぬへし

慶長乱後記林道春云

足利學校ハ參議菅王の建立之我國庠序みて書生受業ノ旧館形ふり社領二百五十石ありし近代九禾老人次ハふふ銀講誦に大閤の時儒法漸く廢まて相國寺の圓光寺住長老ふ之此社を持ふりえ

葉山觀音堂　圓光寺の艮二町ふりて林丘寺門前の北抱所之本ある馬頭觀音坐像一尺八寸又傍ハ葉亭あり臨江亭と額ありて觀音堂のおふらひふありて名ふるふ之をえるみへ拾塔婆　古雅みて名ふるふ之

坐禪石　其傍ふありふ由緒詳ふらに





曼珠院
天滿宮

狸谷石不動　一条寺村天王より艮十町餘ふあり行路嶮岨と高サ二丈餘サ二丈計の石窟あり中ふ石像の不動尊祝安元乙丑長又乙丑計ふ本食と人正禅の立る所と窟乃口ふ石の扉あり高サ四尺計厚サ一尺餘ふ本食正禅明厚と鐫を霊験いちじるくしてつゝふ後人多し此地四隣峭壁みて谷原し樹林蓊鬱そうして白日祇藏し

白鳥越　同所の東ふあり土古の往還道みて足ろ

花之谷　同所ふ搖多し故ふ名くる歟ふの衆徒一度中勤切の搖祇ちょう伐出しは紀の出人公俊くてふ門へ送ろう

曼珠院　同所東ふあり浄宗派意覚大師より相承して天慶天台みて山門の座主く年中小ふ於て開さ執ひ御門跡ふ昇法親王を初くる中古ようる祇禁裏乃側ふ遷る明暦二年良尚親王今の地ふ移し移ふ天満宮　當院後山ふあり祭神菅公洛陽乃菅大臣ふ仕帰洛ふ及ひ御門生兼帯所ふむり一社所ふ月林寺とし天暦ふ三千坊の一寺あり日本紀略ふ康保四年二月廿八日左大臣實頼公月林寺ふ於て拾遺抄ふ古今の紀者躬仙律師延暦寺別當ふ補さ拝堂の為ふ登ふ乃日坂本月林寺ふ於て頻ふ減を情嘆公月林寺ふ於て頻ふ減をよふ

拾遺　菅祇あり一枝のこもおし月の林ふやとりつゝ裕之

支章生
茅原俊生



鷺森　髭題天皇

拾玉
ひえのふか
冬こそいと
さひしけれ
雪のふる
夢れ
杜より

芸法

鷺杜　曼珠院の西ふあり平林みて中に土神と次剣祠ハ三月五日の競馬あり

月輪寺舊跡　日所の小田圃の字ふ

いまこ考ふに又葛飾郡愛宕山の四ふ日名あり

小松宮大まうち君乃月輪も梅の花ふ

家集　山梅ちよのそるくおとしよろ

小松宮おかいまうち君月輪も乃花ふ

新古　そら為ふあことハ誰さん山梅こ

鳥獣公月輪も乃花ふ

後古　山梅あくまでそこをしほるる

色毋坂　鷺杜乃小ふあり京師より七厘山中堂及び四明嶽ふ至ふの一路ふり山道嶮岨ふしてこゝ捷路ふさ坂常ふ雲ふ

不動堂　日所坂の左ふあり額ふ毋寺石川おこの筆本尊不動明王傳教大師の作之像八尺許厨ふ属に

不動龍　本堂の東水飲ふあり

且見ゑ

散木　ゑえのこその大嶽なくまでそ

勉池　色毋坂を登ふ路の左ふあり今涸て

池ともふ

色平記ふそも嶮しきを毋坂ふ

音羽谷　雲毋寺の東ふあり上古瀑布埋没て今微ふ所くふ別ふ

うらふ物語ふ千条のおくいりのさうしをしてふ

夏まうけ始てそ侍ける其ふ

伊澤

三ノ上

て滋乃雫ふの聲あそんふゆゆ下畧

古今抄ふ曰川音羽滋ふ色毋坂の上あり

八雲御抄ふ雫ふ滋ハ山城ふえの

古今　ゆら滋川たきのおとふ来ぬ

権中納言敦忠山荘　拾遺集ふ出

権中納言敦忠の西坂本の山荘乃

拾遺　雫羽川ぜらいまてたえ滋ばせ

林丘寺　雲毋坂の下ふあり本尊聖観音立像二尺餘

初ハ江州大津ふあり額後水尾院宸翰

後水尾院宸翰　書圖同宮妙法院堂ふ安

法皇の御制

賛ふ

うつや舟ハ源ふうくれのくらまの花しふかく

閑山照山えん瑤禅尼公　後水尾院の姫えん

峨山稿ふ林丘寺ふ四親王法諱ハえ瑤自ふ法皇賞天之後

薙髪為ふ菴菊尼純修浄業

林丘寺ふまうでて法堂のおる

ふれのそむやいうるこうろにんお

滋津雫ふ　中院通茂

修学寺行宮　後水尾帝御幸ふ世の御時行宮ふ

清泉　堂ふの東ふあり閑窗の後自ふ湧出ふ

碧巖高泉の記あり

修学寺八景　隣雲夜雨　茅檐秋月

遠岫歸樵　村路晴嵐　修学晩鐘

松崎夕照　殿峯暮雪　平田落雁

雲母坂

雲母寺

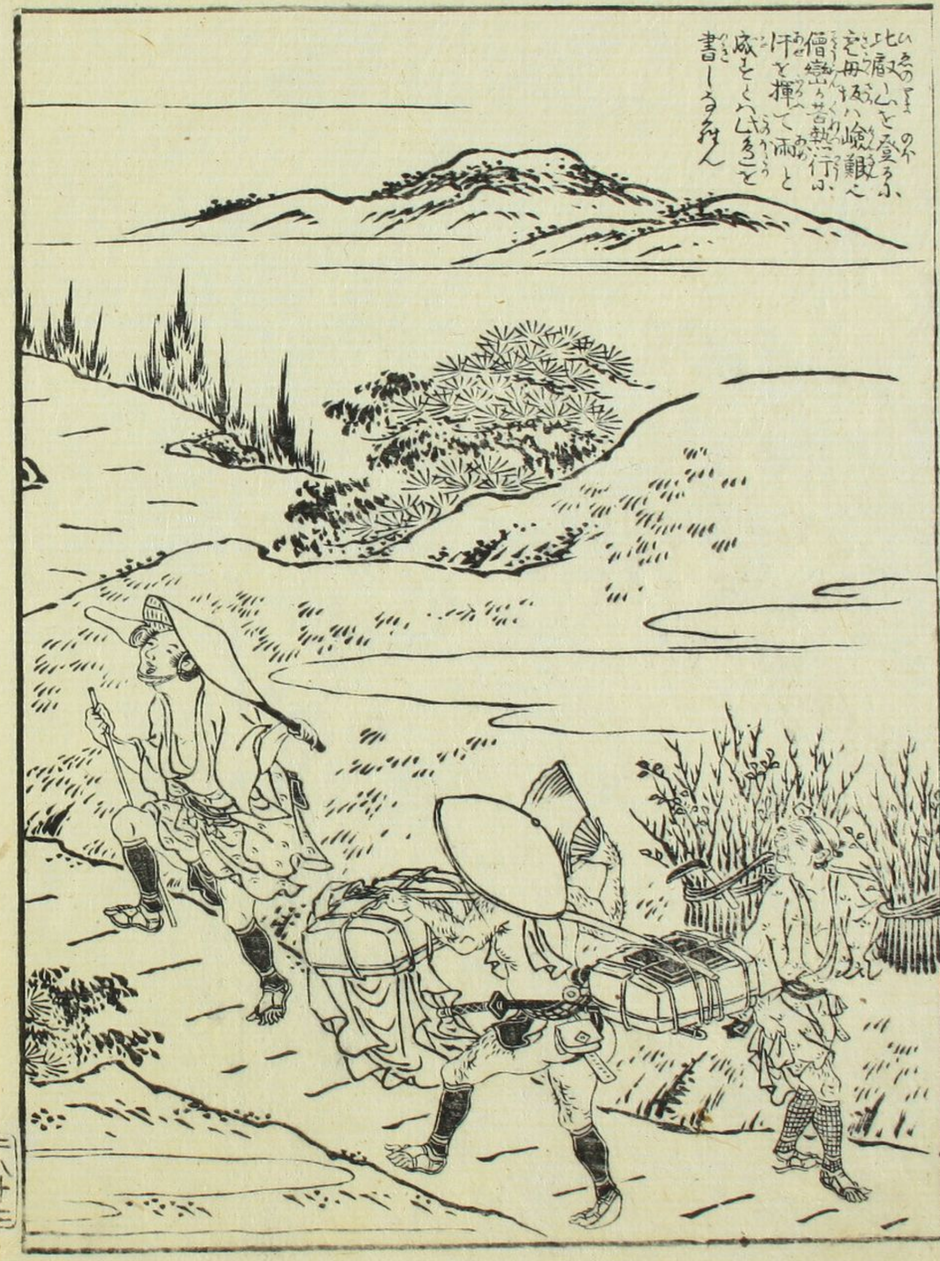
林丘寺



伊澤






いろのよしとをみるふ
北庵しるるハ峻嶺と
を毋るハ
僧綸ら苔執行ハ
汗を揮て雨と
成とくへしをこ
書しるせん

道入寺

修学寺村乃南ニあり洛陽妙覚寺ニ属ス禅宗

禅華庵

旧ト所の東ニあり禅宗ニ属ス

愛想大黒天

畫像二幅對を安ス本像大黒天一躰を安ス長サ壱寸許共ニ厨子乃

旧ニあり當寺の開祖省峰禅師享保十一年二月二日乃夜夢の中ニ大黒蛭子

神ニ奉拝ス二神禅師ニ告て曰汝佛道修行あらんと欲ス乃ち六十乃壽ヲ賀ス

黒天ハ弘画ス蛭子ハ漁人ニ乃ち福あらんと愛ス乃ち来

續テ二夜之禅師夢異乃ち

ひとを乃即老婆ニ

化シ来テ画ス法人ニ與ル来ル一万六千四百像之

施行の儀式を調ヘ大黒天をうつし諸人ニ

勧メ信心あらバ必ず霊験あるべし速ニ土蔵ハ

ニ遷佛乃供養あらそくみ安ス禅師の壽齢

八十六歳ニて入寂しゆ

守禅庵

赤山社二町計小の丘ニあり禅宗ニ属ス開基ハ徹翁義亨ト尚之大燈

国師乃廟所乃初メハ一乗寺村ニ結ヒ

大納言年名郷旧蹟

今の赤山社地ニ移ス明神の

社地ハ貞観十九年三月十八日大納言年名卿小野乃ニ庄

著門集ニ永朝よハ貞観十九年三月十八日大納言年名卿小野乃ニ庄

みて始て尚歯會を行なふ

山端

修学寺村の西ニあり若狭街道ニて八瀬大原の喉口ニ当ル

此の方里々乃往来ニ

鄽躅ス此ニ茶店あり本真ニ名ニ負ハス摺子摺鉢

おつれ帰ほうじを乃て大ニ

書父入や牛会点し

理即院

旧ト所西側ニあり本ス地蔵ヲ安ス

初雲毋恢地蔵考ニ安ス

赤宮

修学寺村の北高野川原村ニあり祭神稲荷明神享保年中ニ干

菜寺勧進トシテ此所ニ

寶幢寺

高野村ニあり禅宗ニ属ス開基ハ徹翁義亨ト尚之大燈

寛永年中の草創ニ

本尊阿弥陀佛

立像長二尺許ニて相好貴奇之像ニ

里ニ善光寺ト云寺あり此乃本尊ヲ

田善光ノ持尊ニ當寺の薫空上人此本尊ヲ

傳記あり

歸命山蓮華寺

寶幢寺の小ニあり天台宗山門ニ属ス初ハ浄土宗

本尊釋迦佛

坐像ニて高サ八九寸許寛文年中賀列乃老臣今枝民部近義

再建ス仏殿の小ニあり銘文本下順庵撰ニそ

今枝宗二居士石碑

居士ハ近義の祖父ニ

漱玉

井屋の額ニ。峨山稿云相傳原百合蘭ニ蓮華寺恵心僧都所供養後

門の右ニあり

高野社

高野村東の糸神早良親王

道定ら只神輿ヲ仆て田畑川脈ニ

山下ニあり

逆ニ叶ハ神輿ヲくして上ら戻ある

むれの如くれい檐活檐ニ破ら

乍忽其所ニ仆動ニそして

まろうろ恐して神輿舁ヲ所乃

無言ニて礼ニ

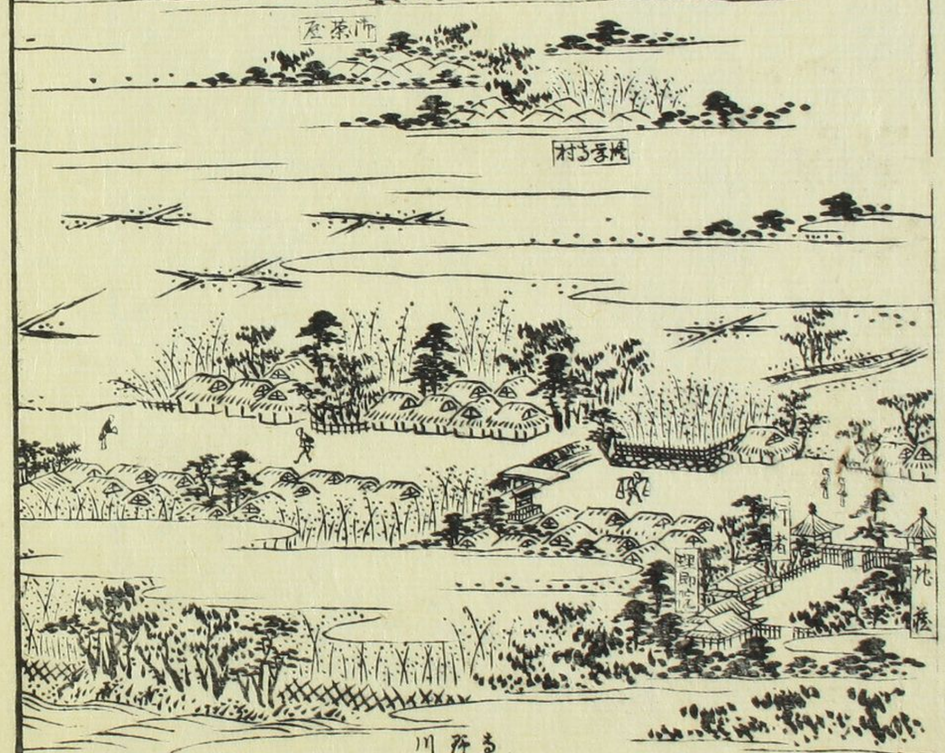
出雲高野神社と乞ス

山城國高野神霊ニ

(伊澤)

光武帝の
麦飯を
飢を凌ぎ
後漢乃
穂始
うんうん
麦飯
麦飯
もうの目
しゅうる
ねるーん。







高野村
寶幢寺



高野末社九神　諸社根元記云加茂大明神山王　貴布禰　いさくの大明神
○いさくの大明神ハ神名帳云伊多々神社愛宕郡ニあり社ハ絶えたり
社西乃山ニ祭ふ森あり社ハ絶えたり　三輪明神　ウレノコセン　護擁神　已上
いさくの大明神ともいふ。ウレノゴセン　疑くらくハ社名今ハ
教ノ神前ともニ已上山城名勝志見へたり社領田字ふあり九月九日ものゝ祭ありと土人
小野毛人墓　小野氏系圖云毛人ハ敏達天皇の曾孫妹子の毛野男之憂い高野川の北崇道天皇乃社山上一町許ふあり人其所を踏ときハ
則響ありて放怪む事ハ慶長十八年癸丑十二月土人高村政重ときて掘くり石槨を得たり内ふ金牌
一枚あり具ニ銘文乃文左のごとし

表文　飛鳥淨御原宮治天下天皇　御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上
裏文　小野毛人朝臣之墓　營造歳次丁丑年十二月上旬卽葬
長二尺許

此牌公命ふまりくる人名ふ安毛とも崇あるふとりくて村民恐怖しまた
又えの石槨へ収むとて今ハ仏金牌の模高野村寶幢寺紀美堂ふ
安毛ゝ
御陰山　高野村の東ふあり。万水一露云みあまたいふる聖の方ふあり俗
現存六帖　そのかミの沸乃ごれのる坂ふ
家集　契りをきそくりぬ神のそらけ著の沼そもりこれ

中原師光
爲家

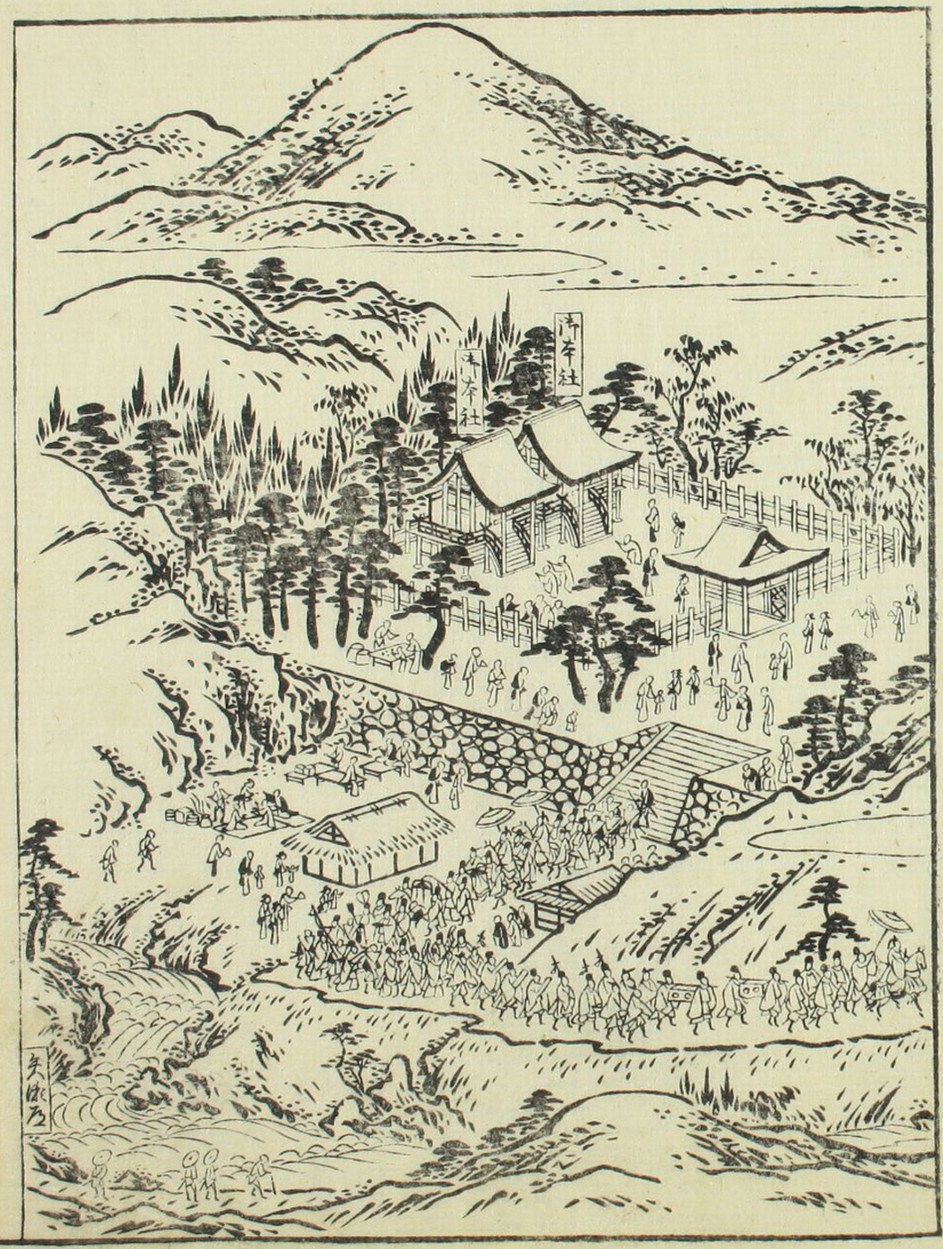
高野
蓮華寺
高野社





甲淵　小瀬小高野より八瀬小至は千束磯　甲淵の北半町ころにあり右の
　諸の猪人名乃東にあり
山みて道幅八尺許乃枝洛ん
平治物語に比叡山にの信頼義朝おすはたれ攻ずてかくるぐ詰どもん
義朝はようなけ及び都みそこくるる
山徒乃まふうりひく死をせんとするを
つ実盛ぞ攻しまつぜんそ馬ようう
ふうけ迫つきうけてひろの名徒つ督
羅みて詰死しもひぬそれ諸國のるを
本國ふ落くろひと討どめて罪はろ
るべ物の臭をびまつぜん通してい
ろう葉武者いうりて伯ぜん裏定てふ
て実盛うろ〇て衆徒大勢おうもも
うるしはんふもさひてあひろゆ
ぎろべしこあひめまる後陣乃老僧
そん所ふ実盛ぞと攻られとうけさろ
敵乃勢をとつくろいさろろ所ふこ
ひけうでとうけへ踏ちしてそろうしん
大衆餓ふ長刀攻えおそしあまたまし
藏國乃住人長井の斎藤別當実盛そ
て怠せいと大衆の中ふ弓取の歩しもの
観音石　千束磯の左の岸より三間計ふ
ありしるし阿弥陀佛と見へ
神子淵　観音石の北ふ町
計ふあり　住吉石　ほし
石という

矢背川　矢脊の由縁は　源ノ大原の北二里許ふそふ城迫の坂ろる山城峠をこて
前編ふ見ゆ
溪ころをろて下鴨の合社の南ふそ鴨川ふ落合ふ出大ふを経て
しそ絲縄江鮭子をし岩ふ觸岸ふ
芽を薄を布て坐し給をふあるふ小網投うちてきの漁ありこ
ありとるも多かりと高野川ふ
も山川の名産之　拾芥抄曰垣川は花衛門府の檢知ふして夏鮎を供そ之侍中群要云
垣川供御所毎旦鮎魚を進ぼえ垣川は矢脊川の一名之
矢背月天神宮　日村の東のふ下ふあり祭神菅霊生土神と次例祭は四月二日神輿二基
一基は八王寺の神輿と諺曰菅家御若年の時廠山法性坊阿闍梨尊意乃室入
りし文書放学びりつと祝給ふ花辻の渡ふ乃北ふそ蔵し給ふ其神霊る意の
室ふ来つ命しもふ来あり阿闍梨の神輿ふ
拓櫛板取ッて妻戸ふ彫付けりふ
拓櫛板ふ彫付けりそふ勧請しりつ
紀貫之之家　小野ふあるよし古今集ふ
古今　杜のふるやしるをぬさとせん小野ふ誘ふそちとは　貫之



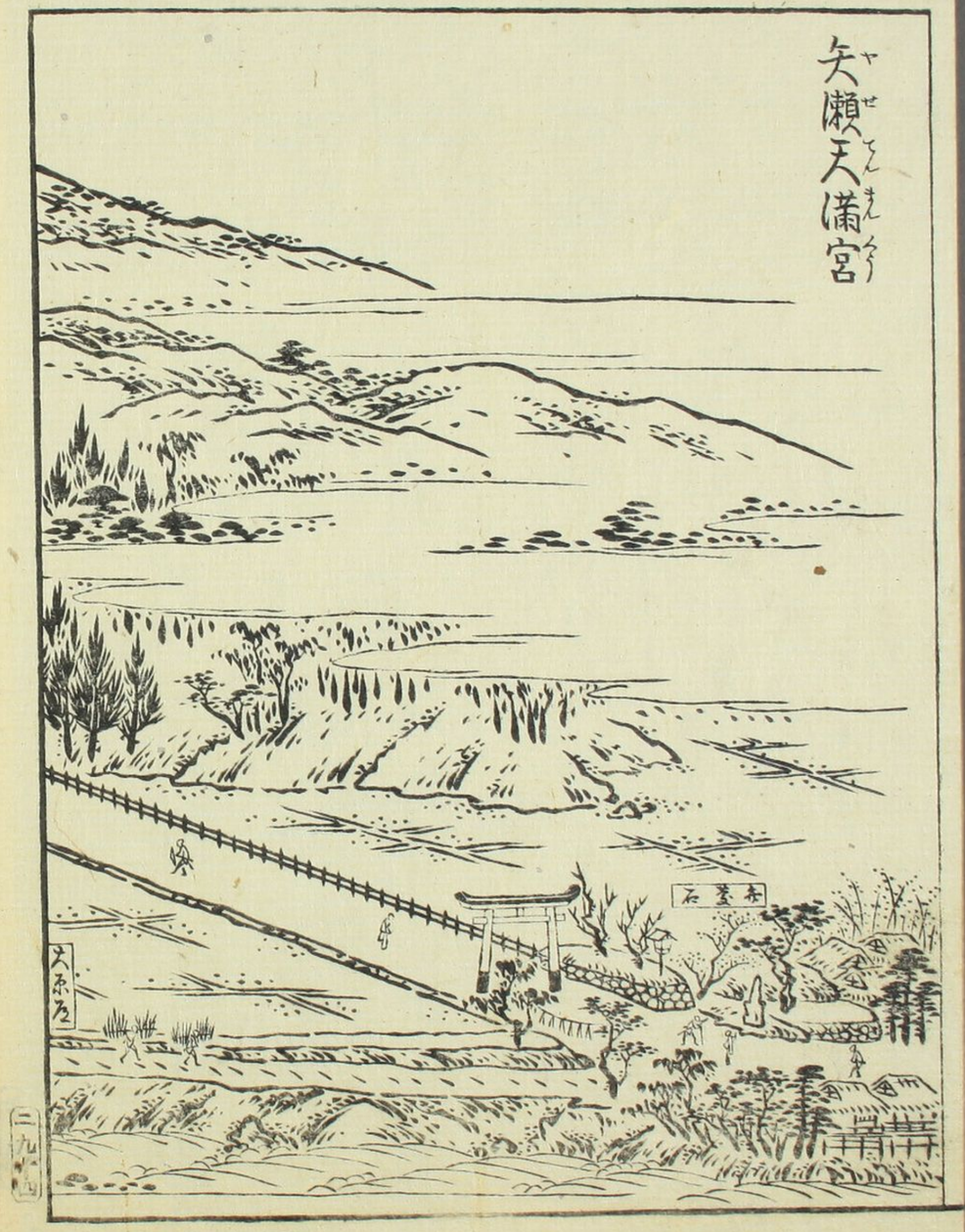
御蔭社御祭



新集
契つゝをくり
ぬ井の
そこけふ
むしの
今も
かしら

為家


本社
拝殿門


矢瀬天滿宮
本殿石
大木戸

炭竈里 大原郷にあり。むかし小野の炭をやきしところ名とぞ

新續者 よそふくもさびしく古の炭竈や煙絶えぬる

ロ 炭うはの煙の里の名ゆゑよそふも春のこのした

波那志里社 大原乃里南の塚の傍の右にあり 源太まい社 杜乃中にあり江文のま社より北に江文の一名居にあり

上野 大原郷の内にあり 上野村

万代 をのづからそふる大原乃里人野の森ふもとの仲実

十禅寺 戸寺村のひがし三町計山腹にあり 本尊阿弥陀佛 聖徳太子の作 坐像二尺二寸 昔くして殊に眼疾に霊場あり草堂無住にして村中より守護す 弘法大師 俗姓佐伯氏讃岐の人 入唐帰朝の後当寺に来り給ふ 妻をも拒絶して修行し給ふ 或時当寺の傍に庵を結び給ひ 自障懺悔し給ひて 成仏をとげ給ふ 其時の弟子 住生素懐 弘通 縁起の大意

龍女山攝取院 大長谷村にあり 一名 左道心寺 浄土宗

開基澤住法師 俗姓佐伯氏讃岐の人 入唐帰朝の後当寺に来り給ふ 妻をも拒絶して修行し給ふ 或時当寺の傍に庵を結び給ひ 自障懺悔し給ひて 成仏をとげ給ふ 其時の弟子 住生素懐 弘通 縁起の大意

惟喬親王舊跡 上野村南の方田の中の家ふ伝ふ 居乃所あり 其地ふ古き石塔あり 土人云 惟喬親王乃御墓なりと云伝ふ

これらのところのりふさうかひろしてをのこいへ所ふ伝ふる云月ふそうんとそまりうくろふるえのふ乃藤うりくれが雪いうりうりそふ

古今 志賀にていかでかそふ山ぢのふもとの雪のいくへなるらん 業平

雪乃ふる日小野ふまうでて侍りけるに惟喬乃親王のいつくふふるとしの中にいつくふふるとしの中にいつくふふるとしの中に

西方院 上野村の中あり開基寂忍法師。般若尼の塔寺内ふあり仁尼ハ寂忍のめく

真光寺 大長瀬村のふふあり本尊釋迦佛行基の作坐像丈六 御墓所へ

青山炭谷墓 勝林院村極楽院の後ふあり仁徳の朝小野の小野みて尋人乃翁あり仁所も具首長の墓あるしん 秀詠多くい炭竈なり炭焼九炭焼を業とする所ふい多し

拾玉 小野ふも大原ふも炭竈の煙いおもしろくあれしん 慈鎮

住吉百首 炭竈も氷室も数ある小野山分史を水とも隔てるれ 後成

小野氷室 延喜式曰山城國愛宕郡 炭焼やわれは物乃淋しきに煙を見はは 具角

千載 下そる氷室の山は雪ふりて道ゆき人おもとる日ふ都 源仲正

拾玉 ともさそふ小野の山への氷室山これも深さは及ふあらぬ 慈鎮

菅穂橋 大原梶井御所の小ふある山橋紀列高野ふ乃御廟橋。奥列松ふ五臺堂乃橋ふ等しくして造恐不善の者いつる事を得さる皆ふる所なりそ

来迎橋 菅穂橋乃小ふあり截石の橋ふして橋干銅の擬寶珠あり郷中の葬送山橋上ふ排来ッて奉る阿弥陀佛小田向ふさしむ

後鳥羽院陵 帝陵記曰北大原勝林院村極楽院頭實光院ふあり火葬所ハ陰岐國隠前海部海士村原福寺ふあり祠と建ほ忍上人ふそふて文殊乃秘法祈修せらる村

獅子石 融通寺堂ふ右ふあり良忍上人ふそふて文殊乃秘法祈修せらる村石獅子と化して踊めくり聲祈發せしむ 釋書出

羅漢橋 来迎院乃ふの石橋祈して傳えむ 仁橋上ふ十六羅漢現じ

法然上人腰掛石 旧所の西ふあり傳え上人勝林院本尊ふ系詣乃時ふ仁石上ふやすらひ給ふとあん

姫祠 勝林院村往還の西ふあり 例祭二月五日

大津杜 菅生村北二町ほの中ふあり

良遍山荘 大原ふある古蹟地詳ならす 袋艸ふ曰

清輔朝臣 仁所良遍の蹟房乃ふ庄ふ遊行をおのく騎馬しくるふ後頼朝臣ふ系れ祈向しむるに答ふ曰

感歎し皆下馬して行るぬ件の良遍法師乃ふある僧語って曰良遍房乃ふ庄今ふ於てありと

障ふふ書ふ人哥いまぢ消ぞそ

後拾遺 山里の甲斐もあるふ哉ふ雪ふ深くも人ふ初見るらん 良遍

仁所ふ後拾遺ふ有って定頼卿の和哥ふ対同じきを以ふそもそも先ふ詠しるしくんや

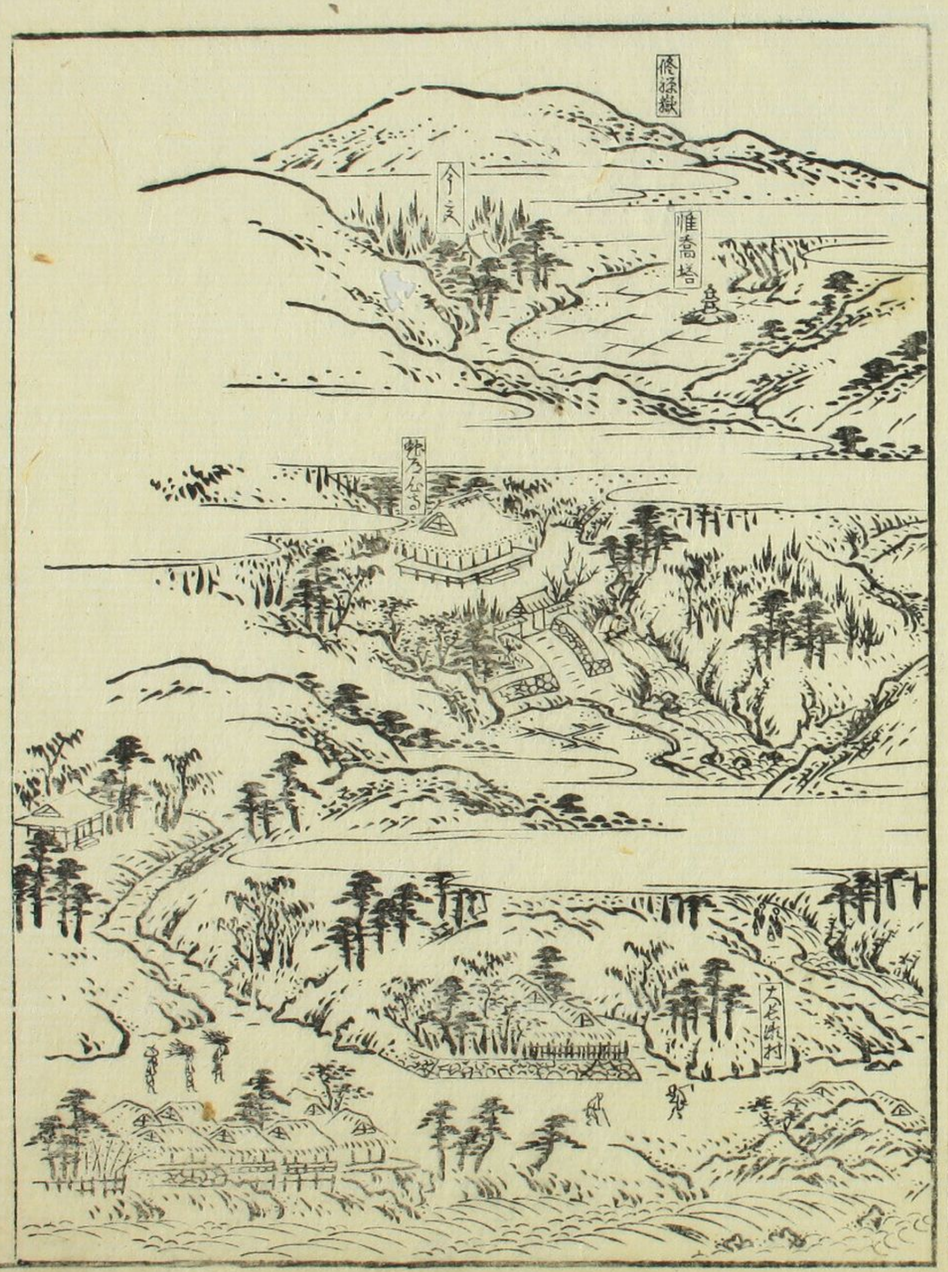
真守鉄盤石 ふせねの東ふ村の内小の方ふ下ふあり 傍ふ仁所鍛治真守が居宅ふり大原真守といふ名鍛治ふれこ

大原郷口

後拾遺
さうはめて拝の
ここやくき祝
大原や
雪の
村居

和泉式部





寂光院　草生村小あり龍燈ふりくさうは此時鳥乃名やこゝ初音にて卯月
の頃都下乃騒客さくら
女院のおはしまし
むうしおりえて

家集　そや爰むしや爰と問よられくさふかきこゝは世乃そこうれ成ぬれ　右京太夫

世中ふ来てそ龍宮のうらふれて侘うるが
坂ふ免しくされおりて建礼門院大原うもそ
陶しきふ免てこのやきうふつけてもさねく
そひ当る事おかくていうう里すく梯えおうるれば

玉葉　くよかくあくるあふ免も遅きふ此世乃そこうれ成ぬれ　僧正全真

火壺雨壺風壺　井出村江文社乃後山ふあり山間ふ自然乃二窟ア
感應あり此地魔所おうとそ

龍華越　大ふの奥ふ出石村乃北ふあり二城峠ともて二足ふ城迫ふ沿の堺と
土人怖きをうる其ふ小ふ椽生村おうて渓界をうり川乃下ふ龍蓋村あり椽生ほ足比殿と比良嶽と乃
故ふ龍華椽生とい

静原峠　江文乃社乃西ふあり此坂を越て長谷岩倉ふ至るそれう鞍馬に
出る成愛乃方ふ當って凡一里半計之

補遺都名所圖會　青龍巻終